

初刊本『杜詩諺解』の口訣研究

上 保 敏

富山大学人文学部紀要第56号抜刷

2012年2月

初刊本『杜詩諺解』の口訣研究

上 保 敏

1. はじめに

周知の如く、初刊本『杜詩諺解』(巻頭題は『分類杜工部詩』)は、杜甫[712～770]の詩を主題別により分類したものに諺解を施した本であり、成宗の命により1481年に活字本(乙亥字)により刊行された。全25巻よりなるが、このうち巻1・2・4は伝わらず、その他の巻が零本として各処に所蔵されている。

この初刊本『杜詩諺解』については、従来より朝鮮語学、朝鮮文学、また漢文学など様々な方面から多様な研究がなされてきた¹⁾。

ところで、東京大学文学部言語学研究室所蔵小倉進平氏旧蔵本巻17(以下、「小倉文庫本」と略すことがある)と、韓国国立中央博物館所蔵本巻17～19(同、「中央博物館本」)には、漢文原文のところどころに墨書による口訣の懸吐が見られる。前者の資料については2003年に『東京大学文学部言語学研究室所蔵小倉文庫貴重本CD-ROM Vol.1』としてデジタル写真が公開されており、後者については、かつて一部の研究者の間で影照が複写され利用されていたところ、2004年に『韓国語研究』2に影印出版されるに至った²⁾。

本稿は、これら2本の初刊本『杜詩諺解』に懸吐された口訣の特徴について考察することをその目的とするものである。

2. 書誌情報

本格的な考察に先立ち、初刊本『杜詩諺解』の書誌情報について、簡単に触れておくことにする。

1章で簡略に述べたように、初刊本『杜詩諺解』は全25巻より構成されているが、巻1・2・4は伝わらず、その他の巻が零本として各処に所蔵されている。おおよそ、次のような所蔵が知られている³⁾。

1) これらの様々な方面の研究者が一同に会した講読会がソウルで行われており、その成果の一部が李賢熙ほか(1997a, 1997b)として刊行された。

2) ただし、影印に付された解題[安秉禧(2004)]では、その冒頭において「国立中央図書館」所蔵本とされているが、「国立中央博物館」の誤りである。

3) 以下の所蔵処に関する記述は、安秉禧(1976b/1992b)、尹容善(1993)、および韓国語世界化財団デジタルハンゲル博物館のホームページ[<http://www.hangeulmuseum.org>]などをもとにしたものである。

- 卷3: 通文館李謙魯氏旧蔵, 普成高校石南蔵書⁴⁾
- 卷5: 某氏
- 卷6: ソウル大学校図書館カラム文庫, 延世大学校図書館
- 卷7: 通文館李謙魯氏旧蔵, ソウル大学校図書館一石文庫, ソウル大学校図書館カラム文庫, 김중오氏(金亨奎氏旧蔵)
- 卷8: 通文館李謙魯氏旧蔵
- 卷9: 通文館李謙魯氏旧蔵
- 卷10: 通文館李謙魯氏旧蔵, 韓国学中央研究院, 문우書房(李能雨氏旧蔵), 李丙疇氏旧蔵
- 卷11: ソウル大学校図書館, 啓明大学校図書館[宝物1051-2号], 李丙疇氏旧蔵
- 卷12: 啓明大学校図書館[宝物1051-2号], 某氏
- 卷13: 京畿道博物館[宝物1051-1号], 澗松美術館(全鏊弼氏旧蔵)
- 卷14: 趙參衍氏
- 卷15: ソウル大学校図書館カラム文庫, 鄭喆氏
- 卷16: 通文館李謙魯氏旧蔵, 鄭喆氏, ソウル大学校図書館カラム文庫
- 卷17: 通文館李謙魯氏旧蔵, 東京大学文学部言語学研究室(小倉進平氏旧蔵), 韓国国立中央博物館
- 卷18: 崔鉉培氏旧蔵, 韓国国立中央博物館
- 卷19: 通文館李謙魯氏旧蔵, 韓国国立中央博物館, 南豊鉉氏旧蔵
- 卷20: 通文館李謙魯氏旧蔵, 東国大学校図書館
- 卷21: 通文館李謙魯氏旧蔵, 東国大学校図書館, 清州古印刷博物館[宝物1051-3号]
- 卷22: 通文館李謙魯氏旧蔵, 承文閣金知憲氏
- 卷23: 通文館李謙魯氏旧蔵, 承文閣金知憲氏
- 卷24: ソウル大学校図書館一蓑文庫
- 卷25: 東国大学校図書館(李丙疇氏旧蔵), 李寬求氏

これらのうち、従来、さほど注目をされてこなかった本があるが、啓明大学校図書館所蔵の巻11～12、京畿道博物館所蔵の巻13、清州古印刷博物館所蔵の巻21などである。これらは、長らくの間、影印本が出版されなかったのみならず、その影照が流布することもなかったためであると思われる。本稿で考察の対象にする中央博物本巻17～19と小倉文庫本巻17も、類似した事情により、長らく注目を受けてこなかった本であると言えるであろう。

4) なお、李浩權(2008)によると、後者の普成高校石南蔵書は朝鮮戦争中に消失したものと推定され、前者に関しても、李謙魯氏の逝去後にその行方が不明になっているという。

初刊本『杜詩諺解』の書誌情報については、従来より多くの言及がなされてきたため、ここでは、簡単に触れておくことにする。ただし、考察対象の2本のうち、中央博物館本巻17～19については、安秉禧(2004)の解題にもさほど詳しい書誌情報が記されておらず、未だ実地調査もできていないため、もう1つの対象となる小倉文庫本巻17について、福井 玲(2002)による書誌情報をもとにして記述すると、以下の通りである。

- a. 巻頭題:分類杜工部詩, 版心題: 杜詩
- b. 唐・杜甫撰, 柳允謙等受命編
- c. 成化17(1481)年刊
- d. 巻17(零本)
- e. 1冊(40丁)
- f. 活字本(乙亥字)
- g. 本の大きさ: 27.4×18.2cm
- h. 四周単辺, 上下黒魚尾
- i. 半廓 22×14.4cm
- j. 有界 8行 17字
- k. 印記: 李熙昇藏書印
- l. 傍点あり

(a)～(c)および(f), (h), (j), (l)などは周知の事実であり、(g)の本の大きさや(i)の匡郭の大きさも、本によりまた張により若干の上下はあるだろうが、大きな違いは出ないものと思われる⁵⁾。ただし、(c)の刊年については、若干留意する点がある。初刊本『杜詩諺解』には刊記が載せられておらず、それだけでもって刊年を知ることができないためである。乙亥字の活字本であって、傍点もある点などから、正音創制後の比較的早い時期に刊行されたことを推測できるのみである。ただし、1632年刊行の重刊本『杜詩諺解』の序に、初刊本が成宗の命により成化17年に刊行されたという記録があるため、これをもって、初刊本の刊年としているのである。

1つ注目すべき点は、(k)の印記である。この本には、小倉進平氏の旧蔵であることを示す「小倉蔵書」、東京大学の蔵書であることを示す「東京大学図書」、文学部言語学研究室の蔵書であることを示す「言語」という印記とともに、「李熙昇藏書印」という印記が付されているためである。この本はもともと李熙昇氏の旧蔵であったものが何らかの経緯で小倉進平氏の蔵書に

5) 福井 玲(1987)においては、氏が実地調査をした諸本についてその書誌情報が比較的仔細に記述されているが、本の大きさ、匡郭の大きさなどは、やはり本による違いがさほど見られないようである。

移り、小倉進平氏の逝去後に東京大学文学部言語学研究室に移管したものとされるが⁶⁾、詳細については、もう少し仔細な検討が必要であろう。

3. 口訣の特徴

前に述べたように、初刊本『杜詩諺解』の諸本のうち、中央博物館本巻17～19と小倉文庫本巻17には、墨書でもって口訣を懸吐した痕跡が見られるが、管見の限りでは他の諸本には見られない。ただし、これら2本においても、全巻に渡って満遍なく懸吐されているのではなく、懸吐されている部分と懸吐されていない部分に大きく分かれる。中央博物館本の場合には、口訣の懸吐の有無はおおよそ詩単位であり、懸吐されている詩にはその詩の全編に渡って満遍なく懸吐されているのに対し、懸吐されていない詩には、どの部分にも全く懸吐されていない。すなわち、詩の一部分にのみ懸吐される、といった現象は見られない。小倉文庫本の場合、口訣の懸吐はさらに微々たる状況である。しかも小倉文庫本は巻17のみであるので、口訣はごく少数の例が見られるのみである。

従って本稿では、これら2本のうち、中央博物館本を主たる考察対象とし、小倉文庫本については補助的に取り扱うことにする⁷⁾。

3.1. 助詞

まず、口訣でもって助詞が懸吐された例について見てみることにする。

- | | |
|---------------|--------------|
| (1) a. -이 | ゝ(*) |
| b. -ㄹ/을/을/를/를 | ㄷ(*) |
| c. -(으/으)로 | 又, 乙又 |
| d. -애/에/에 | 々ゝ, 亦ゝ, ㄱ(*) |

6) これらの「東京大学図書」、「小倉蔵書」、「李熙昇蔵書印」の3つの印記のうち、「李熙昇蔵書印」が第1張の匡郭内右下の最も低い位置に付され、「小倉蔵書」、「東京大学図書」はその上部に連ねるように付されている。このことから、「李熙昇蔵書印」が最初に付され、「小倉蔵書」はその後に、「東京大学図書」は3番目に付されたものと推定することができ、所蔵処の移り変わりを読み取ることができるであろう。

7) 以下の考察では、中央博物館本に見られる特徴を中心に扱い、小倉文庫本に関しては、補助的に取り扱うことにする。用例の中で(*)の表示のあるものは、小倉文庫本にも同じ口訣が見られることを意味する。また、例文中の%の表示は、口訣のような書き込みが見られるものの判読が不可能なものを示し、?の表示は、判読が不確実なものを示す。

なお、判読に際しては、上述の影照を主に用いることにする。『韓国語研究』2による影印では、懸吐された口訣の判読が困難な箇所が多いためである。この影照を提供して下さったソウル大学校李賢熙教授に深く感謝申し上げる次第である。

また、口訣の判読においては、安秉禧(1977)の口訣研究、及び、菅野裕臣(1981)に手書きでもって示されている口訣一覧を大いに参考にした点を付言しておく。

e. -엔/엔	ㄴ 1
f. -와/과	ト
g. -이/의	矣
h. -ㄴ/은/은/ㄴ/는	ㄴ, ㅆ 1
i. -(으/으)란	ㄴ스ㄴ?
j. -도	ㄴ(*)

まず, (1a)は主格助詞「-이」であるが、例外なくすべて「ㄴ」で現れており、高麗時代の積読口訣のような「ㄴ」は現れなかった。(1b)は対格助詞「-을/을/를/를」であるが、先行音節の末音が母音であれ子音であれ、また陽母音であれ陰母音であれ区別無く、すべて「ㄴ」で現れた。

一方, (1c)の具格助詞「-(으/으)로」は、先行音節の末音が母音であれば「스」、子音であれば「ㄴ스」と、区別が見られた。次の(2)が「스」の例, (3)が「ㄴ스」の例である。

- (2) a. 以茲스報主寸心赤ッヒ / 일로써 님그물 감습ㄴ 寸心이 블그니 <17:33a_3>⁸⁾
 b. 何事스入朝霞 / 므스 일로 아츨 雲霞에 드렛느니오 <18:6a_1>
- (3) a. 繚以周牆ㄴ스百餘 1里ㄴ / 들엇는 담으로 百餘里를 버므렛느니라 <17:25a_5>
 b. 肯使麒麟ㄴ스地上行 / 엇데麒麟으로 히여 地上에서 든니게 히리오 <17:29b_2>

(2)の場合は、先行音節の末音が「茲(자)」, 「事(사)」と母音であり, (3)は「牆(장)」, 「麟(린)」と子音である。それぞれに, 「스」と「ㄴ스」が区別して使われているのが分かる⁹⁾。

(1d)は處格助詞「-애/에/예」であるが、先行音節の末音が陽母音であれ陰母音であれ、大部分は「스」でもって現れる。また, 「스」は、次の(4)で見ると、先行音節の末音がi母音、または音節副音yの場合に現れるため, 「-예」に該当するものである。

- (4) a. 晝洗스須騰涇渭深스 / 나지 싯규므란 모로매 涇水 渭水스 기픈 덕 들여가고 <17:29a_2>
 b. 後茲스傑出雲孫比 / 後來예 雲孫 等比엇 사르미 傑出스도다 <19:22b_2>

ただし, 次の(5)で見ると、先行音節の末音がi母音、または音節副音yであるにもかかわらず, 「스」が使われる場合もあるため, 「스」の懸吐は絶対的ではなく、任意であった

8) 用例の末尾に付したヘッダーでは、調査対象の2本のうち、中央博物館本の場合はその表示を略し、小倉文庫本の場合は「小倉本」と表示する。また, 「:」の前の数字は巻数、後の数字とアルファベットは張数と表裏を示し、その後ろのアンダーバー「_」に続く数字は、それぞれの張においてその例が何番目に登場する文であることを示した数字である。ただし、これらは、それぞれの例における諺解文を元にした情報であるため、漢文原文が登場する張数とは異なる場合がある。

9) ただし, 「ㄴ스」は巻17にのみ見られ、巻18～19には見られない。すなわち、巻18～19では、先行音節が母音である例のみが見られ、それらに例外なく「스」が懸吐されていることになる。

ことがうかがえる¹⁰⁾。

- (5) a. 牽來^ㄴ左右^ㄴ神皆竦 / 後來예 雲孫 等比엿 사^ㄴ미 傑出^ㄴ도다 <17:28a_4>
 b. 草堂^ㄴ西^ㄴ無樹林^ㄴ / 草堂入 굴형 西入 녀기 나모 수프리 업스니 그되 아니
 먼 뒤 또 幽深^ㄴ 막스물 비리오 <18:22b_2>

また、次の(6)のように、處格助詞が「ㄴ」で現れることもある。處格助詞が「ㄴ」で現れるのは、中央博物館本では(1e)の「ㄴ 1」を含めて(6a)～(6b)の2例、小倉文庫本では(6c)の1例があるのみである。

- (6) a. 聖朝^ㄴ尙飛戰鬪塵^ㄴ / 聖朝에 오히려 사호멧 드트리 ㄴㄴ니 <19:21b_1>
 b. 天廐^{ㄴ 1}眞龍^ㄴ 此其亞 / 하^ㄴ 馬廐엔 眞實入 龍이오 이^ㄴ 그 버그니로다
 <17:29a_1>
 c. 強^ㄴ 神^ㄴ 迷^ㄴ 復^ㄴ 皂鵬前^ㄴ ? 俊材早在蒼鷹上 / 精神을 고들파도
 거문 수^ㄴ 알^ㄴ 도라가^ㄴ 迷^ㄴ 俊傑^ㄴ 材質은 일 프른 매 우회 잇더니라 <
 小倉本 17:9a_3>

(4)～(5)のように、處格助詞が「ㄴ」や「ㄴ」と2字でもって書き表されているため、この口訣が施された時期には「에/에/에」は現代朝鮮語のような「e/e/je」ではなく、「aj/aj/jaj」のような二重(三重)母音であったものと考えられる。(6)のように、「ㄴ」1字でもって現れる例もあるため、若干問題にはなり得るが、これについても「ㄴ」の原漢字「崖」の漢字音が未だ単母音化が進んでいなかったものと考えれば、この推定を妨げるものにはならないであろう。

ところで、(1d)のうち、「ㄴ」の出現は、特記すべきである。これを處格助詞として利用したものと思われる例として、次の(7)のような例が見られる。

- (7) 兔^ㄴ 經三窟^ㄴ 莫深憂^ㄴ / 鬻기^ㄴ 세 鬻 굼기 디나드러실식 기피 시름 아니^ㄴ ㄴ다
 <17:12a_1>

「ㄴ」は、通常は「羅」の略字で「라」音を表示するのに多用される口訣字であるが、この(7)の例ではそうではなく、「令」の略字であると見られる。したがって、その訓が使役の「히-」であるため、ここでは「히/히」あるいは「기/기」のような音を現しているものと思われる。ところで、先行する「窟」字の訓である「구무」は、いわゆる特殊語幹交替¹¹⁾を見せる体言であり、その處格形は諺解文に見られるように「굼기」となる。従って、この「ㄴ」は、その「굼기」の末音「기」を添記したものではないかと思われる。こうした解釈が可能であれば、原文の「窟」字は訓読をしていたことになり、ここに釈読口訣的な要素を見出すことができるであ

10) ただし、(5b)の「西」の漢字音は「서」と「세」の2種があったため、若干注意を要する例ではある。

11) 李基文(1962)参照。

ろう。

あるいは、この「ハ」は、(8)のような高麗時代の釈読口訣資料に見られる「+」、あるいは、(9)のような中期朝鮮語資料にごくまれに現れる「-회」と関連があるかもしれない。

- (8) a. 爾_ハ時_ト諸_ト大衆_ト俱_セッ_ハ共_セ僉然_キ生疑_ッ各_ハ <旧訳仁王経上:02>
- b. 一_ハ未調_ッ未順_ッ而_シ死_ノ々_セ雜染相應_ッ二_ハ死已_シッ_ハ當_ハ煩惱大坑_ト墮_ノ々_セ雜染相應_ッ <瑜伽師地論 卷20:21>
- (9) a. 驥子_ハ 豆_ハ 아드리니 前年_ハ 말_ハ 빅홀 제 사람과 소_ハ 姓을 무려 알며 老夫의 詩를 외오더니라 [驥子好男兒 前年學語時 問知人客姓 誦得老夫詩] <初刊本 杜詩諺解 卷8:47a>
- b. 가_스 ㅎ다가 년_ハ 회 물어디거든 삼년을 맛다셔 갑 받디 말오 쪼리라 ㅎ야 [假如 明年倒了時 管的三年 求要功錢打] <翻譯朴通事 上:10b>

すなわち、中期朝鮮語かそれ以前の時期に、處格助詞として、「-기」あるいは「-회」なる形態もあったと考えれば¹²⁾、(7)の「ハ」はこれを表記したものと見ることも可能であろう。いずれの解釈によっても、これらの口訣が初刊本『杜詩諺解』の刊年である1481年以降の比較的早い時期に施されたことを示す根拠の1つになり得るものと思われる。

(1f)は、共同格助詞「-와/과」であるが、「ト」と現れる。「ト」に先行する音節の末音は母音である例が大部分であるが、次の(10)のように、子音である例も1例のみ現れる。

- (10) 頰綱_ト?漏網_ト 期彌綸 / 網紀와 긔여디는 그므를 다 다스료물 期望_キ노라 <19:21b_3>

ただし、こうした例は(10)以外に見られず、また本資料には「ハ」、「果」のような口訣字自体が用いられていないため、断言することはできないが、「ト」が先行音節の末音の区別無く用いられていたものと考えておくことにする。

(1g)は属格助詞「-의/의」であるが、「矣」で現れており、先行する体言は、たとえば次の(11)に見られるように、すべての例が有情の平称の例ばかりである。

- (11) a. 無數將軍_ハ 西第成_ッ 早作丞相_ト 東山起 / 수업시 將軍의 西_ハ 녁 지비 일며 일 丞相이 山東에서 니러나돏다 <19:23a_2>
- b. 始知神龍_ト 別有%種_ト 不比俗馬_ハ 空多肉 / 神龍은 各別히 比 이쇼물 비르셔 아노니 상마릭 혼갓 고기 함 글디 아니_ハ니라 <17:31b_3>

従って、中期朝鮮語の属格助詞の体系に見られるような、「-의/의」と「-ハ」の区別¹³⁾が、

12) 南豊鉉(1977/1999) 参照。

13) 安秉禧(1968/1992a) 参照。

本資料の口訣にもあるのだろうか、断言することはできない¹⁴⁾。

(1h)は主題を現す助詞「-ㄴ/은/은/는/는」であるが、「1」と「ㄷ1」でもって現れる。一見すると、先行音節の末音が母音であれば「ㄷ1」、子音であれば「1」といった区別があるようにも思われるが、実際はそうではない。次の(12)～(13)に見られるように、先行音節に関係なく、「1」と「ㄷ1」が使われているのである¹⁵⁾。

- (12) a. 丈人駿馬_{ㄷ1}名胡騶_{ㄷ1} / 丈人の駿馬는 일후미 되 騶馬 | 니 <17:31a_1>
 b. 西京₁安穩未_{ㄷ1} 不見一人來_{ㄷ1} / 西京은 편안_{ㄷ1}혼가 묻_{ㄷ1}혼가 혼 사_{ㄷ1}릭 음도 보다 묻_{ㄷ1}리_{ㄷ1}로다 <18:5a_6>
- (13) a. 百花高樓_{ㄷ1}更可憐_{ㄷ1} / 온 가짓 곳 픈 노_{ㄷ1}곶 樓_{ㄷ1}는 쏘 어루 듯오도다 <18:7a_5>
 b. 綠竹_{ㄷ1}半含籜_{ㄷ1} 新梢_{ㄷ1}纒出牆_{ㄷ1} / 프른 대_{ㄷ1}는 半만 거프를 머것고 새 가 지_{ㄷ1}는 아야라 다매 내와_{ㄷ1}뎃도다 <18:10b_4>

(12a)は、先行音節が「馬(마)」, (12b)は「京(경)」であるが同様に「1」が使われており、(13)の場合もそれぞれ(13a)が「樓(루)」, (13b)が「竹(죽)」, 「梢(초)」であるが、ともに「ㄷ1」が使われているのが分かる。

(1i)の「ㄴ스ㄴ」はやや特異な例である。左側に懸吐されているのもそうであるが、「ㄴ스」の後にハングルの「ㄴ」のような文字が記入されているためである。次の(14)の例である。

- (14) a. 紅_{ㄴ스ㄴ}?/*좌측도*/取風霜實_{ㄴ스}? 青_{ㄴ스ㄴ}?/*좌측도*/看雨露柯_{ㄴ스}? / 블그니란 비_{ㄴ스}과 서_{ㄴ스}리엿 여르_{ㄴ스}물 뵈고 프르_{ㄴ스}니란 비와 이스_{ㄴ스}랏 가지_{ㄴ스}를 보노_{ㄴ스}라 <18:3a_2>

これらの口訣は判読が難しく、断定することはできないが、諺解文においても「-(으/으)란」が用いられていることから、「ㄴ스ㄴ」全体が「이_{ㄴ스}란」を現したものと見なすことにする。

最後に、(1j)の添加を現す助詞「-도」は「刀」でもって現れるが、この例は中央博物館本と小倉文庫本にそれぞれ1例ずつ現れるのみである。

3.2. 接尾辞

次に、用言につく語尾類について見ていくことにする。まずは、接尾辞である。

- (15) a. -(으/으)니- ㅂ스, ㅂ스, ㅂ스
 b. -(으/으)리- ㅅ, ㅅ, ㅅ
 c. -ㅂ- ㅂ스(*), ㅂ스, ㅂ스
 d. -오/우- ㅂ스, ㅂ스, ㅂ스, ㅂ스, ㅂ스, ㅂ스, ㅂ스

14) そればかりでなく、これらの資料には、「ㄷ」の懸吐自体が1例もない。

15) ちなみに、「ㄷ1」は、巻18にのみ現れ、巻17と巻19では、すべて「1」が使われている。

- | | |
|------------|---------------------------|
| | ㄹ ㅅ ㅅ |
| e. -거/아/어- | 巨乙, 今乙(*), ㄴ今乙?, ㄹㅏ乙?, 今ㅏ |
| f. -뫓/뫓- | ㅅ小ヒ |

上記の(15)は、左側に接尾辞をハングルで示し、右側はそれぞれの接尾辞が含まれる口訣吐を示したものである。

まず、(15a)は不定称の接尾辞「-(으/으)니-」, (15b)は未実現の接尾辞「-(으/으)리-」であるが、それぞれ、「ヒ, 尾」, 「曰」で現れている。「曰」は後ろに疑問形の終止形語尾が後接した例として「曰五, ㄴ曰五」などと現れるため、接尾辞「-(으/으)리-」の後の「ㄹ」弱化現象が厳格に守られているのが分かる。

(15c)は現在時制の接尾辞「-ㄴ-」であるが、基本的に「ヒ」でもって現れるが、(15d)のいわゆる意図法の接尾辞「-오/우-」を伴う場合には「ㅅ」となる。

(15d)は、いわゆる意図法の接尾辞「-오/우-」であるが、これを含む形態として、「ㅅヒ, ㅅㅅ, ㅅㅅ, ㅏㅅ」などが現れる。従って、接尾辞「-오/우-」はひとまず「ㅅ」あるいは「ㅏ」でもって現れるものと判断できる。次の(16)～(17)がその例である。

- (16) a. 三歎聚散 ㅅ臨重陽 ㅅㅅ / 모다 이시며 흐러가물 세 번 嗟嘆 ㅎ고 重陽을 臨 ㅎ야 슈라 <17:33b_4>
 b. 焉得置之 ㅅㅅ 貢玉堂 ㅅ / 엇데 시러곰 두디 玉堂에 바티러노 <19:19b_3>
- (17) 身欲奮飛 ㅏㅅ? 病在床 / 모미 ㄴ라가고져 ㅎ나 病 ㅎ야 床에 누어 잇노라 <19:18a_1>

しかし、次の(18)～(19)に見られる「ㄴㅅヒ」, 「ㄴㅅㅅ」と対照してみると、これらの「ㅅ」あるいは「ㅏ」は、用言「ㅎ-」に接尾辞「-오/우-」が付いた「호-」を現すものと見なければならぬだろう。

- (18) a. 恐是潘安縣 ㄴㅅヒ 堪留衛玠車 乙 / 이 潘安의 ㅏ을힌가 전노니 衛玠 술위를 머 물웁직 ㅎ도다 <18:6a_2>
 b. 深知好顔色 ㄴㅅヒ 莫作委泥沙 乙, ㅏㅏ/*좌측도*/ ㄴㅏ비치 ㄹ호물 기피 아노니 泥沙에 버리어쇼물 ㅏ외디 ㅏ물디어다 <18:6a_3>
- (19) 豈知異物 ㄴㅅㅅ 同精氣 曰五 / 다른 物이로디 精氣는 곧 혼 고들 어느 알리오 <17:26b_3>

すなわち、(18)～(19)に見える「ㅅ」は、指定詞「-이-」に接尾辞「-오/우-」が付いて「로」になったものと解釈できるためである。

(15e)は、強勢の接尾辞「-거/아/어-」であるが、「巨」あるいは「今」と現れる。次の(20)～(21)に見られるように、この接尾辞を取る用言として、他動詞の例は見出しにくく、非他動詞の例ばかりである。下記の(20)が「巨」と現れた例、(21)は「今」と現れた例であり、(21c)

は(21b)と同一原文の小倉文庫本の例である。

- (20) a. 江上人家桃樹枝、春寒_ト細雨_ハ、出疎籬_ニ / 마름 우희 사르미 값 桃樹_ハ
가지 보미 서늘커늘 마름 비에 섯낀 울헤 내와뎃도다 <18:3a_5>
- b. 絆之_ト欲動_ハ、_ハ轉敬側_{ッヒ} / 밧엿거늘 뒤우저 _하다가 마장 기우러뎃느니
<17:27a_2>
- (21) a. 深知好顔色、_ハスヒ 莫作委泥沙_ニ、_ハ스_ト/*좌측토*/ / 늦비치 도호물 기피 아노
니 泥沙_애 브리여쇼들 드외디 마를디어다 <18:6a_3>
- b. 在野_ハ、只教心力破_{ッヒ} 干人、何事_ハ網羅求_キ / 밧헤 이서서 오직 히여 사
르미 心力으로 혈에 _하느니 사르미게 干犯호미 므숫 이리어늘 그물로 求_하느
니오 <17:11b_2>
- c. 在野只教心力破 干人、何事_ハ網羅求 <小倉本 17:11b_2>

このうち、(21)の例は、諺解文と対照してみると、指定詞「-이-」が省略されており、指定詞「-이-」の影響で「ㄱ」が弱化したために「_ハ」が現れているものと解釈可能であろう。このように考えるならば、(21)は非他動詞が純粹に「-아/어-」を取って現れている例であるとは言えず、従って、これらの資料に懸吐された口訣において、非他動詞は「-거-」、他動詞は「-아/어-」を取ると言った対立関係¹⁶⁾が見られるかどうかは、これら(20)～(21)の例だけでは定かではない¹⁷⁾。

(15f)の「_ハ스ヒ」は、感動法の接尾辞「-ㅁ/ㅁ-」を含んだ形態であるが、(22)の1例のみが見られた。

- (22) 黑鷹_ハ不省人間有_ハ스ヒ 度海_ッ疑從北極來_ニ / 거문 매는 人間애 이슈물 슬피
디 몬_하리로서니 바를_를 건너 北極으로브터 온가 疑心_하노라 <17:12a_2>

(22)の例で、諺解文において「-리로소니」となっているため、原文に付された口訣は未実現の接尾辞「-(으/으)리-」が省略されたために、「-ㅁ-」のほうの形態が現れているものと解釈できるであろう。

3.3. 終止形語尾

終止形語尾は、次のように現れる。

- (23) a. -가/아 可, 阿(*)
b. -(으/으)리가 乙可

16) 高永根(1980)参照。

17) なお、後述するように、小倉文庫本においては、非他動詞が「_ハ」を取った例が見られる。詳しくは3.6を参照。

- | | |
|------------|------------------------------|
| c. -고/오 | 古, 五(*), 曰五, ㄴ曰五 |
| d. -(으/으)라 | ッス |
| e. -다/라 | ス, ヒス, 今夕, イス, ㄴ尾ス, ㄴヒス, ヌ又ス |

(23a)～(23c)は、疑問形語尾である。これらのうち、(23a)～(23b)の「可」, 「ㄷ可」, 「阿」は、判定疑問文のみならず、説明疑問文としても現れる。次の(24)～(26)がその例である。

- (24) a. 如何貴此%重 却怕有ㄷ可/*좌측토*/人%知%/ 엇데 이 거식 重호몰 貴히 너
기리오 저도 도르혀 사름 알리 이실가 전눗다 <18:2b_3>
- b. 此豈有意仍騰驤可 / 이 엇데 들고저 호는 쁘디 이시리오 <17:27a_2>
- (25) a. 西京 1安穩未阿 不見一人來ㄷ / 西京은 편안흔가 못흔가 흔 사르미 음도 보디
몰호리로다 <18:5a_6>
- b. 君肯辛苦越江湖阿 / 엇데 辛苦로이 江湖를 건나 가리오 <17:32b_3>
- (26) a. 願分竹實及螻蟻 ㄴヒ 盡使鴟梟相怒號阿 / 願흔든 댓 여름과 가야미를 눈화 줄
디니 다 鴟梟로 히여 서르 怒호야 우르게 호야리아 <小倉本 17:3a_4>
- b. 可憐處處巢居室 ㄴ何異飄飄託此身阿 / 可히 슬프다 곧마다 사는 지브 와 깃호
느니 飄飄히 이 모를 브터슴과 어느 다르료 <小倉本 17:16b_2>

(24a)は判定疑問文, (24b)は説明疑問文であるが, ともに, 「可」を含む形が使われており, (25)の場合も同様に, (25a)が判定疑問文, (25b)が説明疑問文であるが, ともに「阿」が使われている。(26)は小倉文庫本の例であるが, 同様に(26a)が判定疑問文, (26b)が説明疑問文であるが, 「阿」が共通して使われている

ただし, (23c)の「ㄱ」, 「ㅌ」の場合は, 次の(27)のように説明疑問文にのみ用いられ, 判定疑問文において用いられることは無かった。

- (27) a. 可憐處處ㄴ巢居室 ヌヒ 何異飄飄託此身호 / 可히 슬프다 곧마다 사는 지브
와 깃호느니 飄飄히 이 모를 브터슴과 어느 다르료 <17:16b_2>
- b. 忽疑行%暮雨스ヒ 何事又入朝霞ㅌ / 나뵈 비를 네는가 문득 疑心호다니 므스
일로 아츨 雲霞애 드렛느니오 <18:6a_1>
- c. 落落出群 1非檉柳ㅌ 青青不朽 ㅌ 1豈楊梅 曰ㅌ / 노과 무레 내와다쇼든 檉柳]
아니오 퍼러호야 석디 아니호미 엇데 楊梅리오 <18:22a_3>
- d. 軍符 1侯印ㄷ取豈遲 曰ㅌ 紫 1燕駮耳行甚速 / 將軍入 符節와 諸侯의 印을 어두
미 엇데 더디리오 紫燕과 綠耳와 녀가미 甚히 섯른 듯도다 <19:21a_4>

従って, これらの口訣が懸吐された時期には, あるいは, 現代朝鮮語のような「-가/아」系の疑問形語尾へと一本化していく前兆期に差し掛かりつつあった, と見ることもできるのではないかと思われる。

(23d)は命令形語尾, (23e)は叙述形語尾を含む諸形態である。これらの例において, 「라」音

を現すのに、「ㅅ」のみが使われ、「ㅁ」や「ㄷ」などは現れなかった。

3.4. 接続形語尾

接続形語尾は、多様なものが現れるが、おおよそ以下の如くであった。

(28) a. -고	ㅁ(*), ㄴㅁㅅㅅ, ㅁ, ㅅㅁ
b. -다가/라가	ㄴㅁㅅ
c. -늘	ㅁㅅ(*), ㄴㅁㅅ?, ㅅㅅㅁ
d. -되	ㅅㅅ, ㄴㅅ, ㅅ, ㄴㅅㅅ
e. -(으/으)나	ㄴㅅ
f. -(으/으)니	ㅅ, ㅅ, ㄴㅅ(*), ㄴㅅ, ㅁㅅ, ㅅㅅ, ㄴㅅㅅ, ㅅㅁㅅ, ㅅㅅㅅ(*), ㅅㅅㅅ(*), ㅅㅅ
g. -(으/으)르췌	ㄴㅅㅅㄴ, ㅅㅅㅅㄴ
h. -(으/으)며	ㅅㅅ
i. -(으/으)면	ㅅ, ㄴㅅ, ㅅㅅ
j. -도록	ㅅㅅ
k. -아/어	ㅅㅅ
l. -아도/어도	ㅁㅅ

(28a)の「-고」は、疑問形語尾と同一の「ㅁ」または「ㅅ」でもって現れ、後者は「ㅅ」が弱化した形態である。従って、「ㅁ」が単独で用いられた場合は、用言の「ㅎ-」が省略されたもの、「ㅅ」が単独で用いられた場合は、指定詞「-이-」が省略されたものと見なさなければならぬであろう。次の(29a)が前者の例、(29b)が後者の例である。

- (29) a. 鴻飛冥冥 ㅅㅅㅅㅅ 日月白 靑楓 ㄴㅅㅅㅅ 天雨霜 / 그려기 아스라히 놀오 히 ㅅㅅ리 불 마
니 프른 실나모 니피 ㅅㅅ고 하늘히 서리를 ㅅㅅ리오듯다 <19:18a_3-18b_1>
- b. 桃花一簇開無主 ㅅㅅㅅ 可愛深紅 ㅅㅅㅅㅅ 淺紅 ㅅㅅ / 桃花ㅅㅅ 히 ㅅㅅ기 ㅅㅅ 님자히 ㅅㅅㅅㅅ
기피 ㅅㅅ그니도 ㅅㅅ히 ㅅㅅ랑ㅎ오며 녀티 ㅅㅅ그니도 ㅅㅅ랑ㅎ도다 <18:7b_3>

(28b)は中断を現す接続形語尾「-다가」であるが、指定詞語幹「-이-」の後で、「다」が「라」に変化している。

(28c)の「-늘」、(28d)の「-되」については、前述した通りであるが、このうち「ㅁㅅ、ㄴㅁㅅ?、ㅅㅅㅁ」などの表記において、「ㄴ」音は反映されていない。これらの資料において、「ㄴ」自体は使われているが、助詞の「-ㄴ/은/은/는/는」、あるいは連体形語尾「-(으/으)ㄴ」のみに使われている。このように、「ㄴ」音が反映されない現象は、音読口訣資料に広く見られるものである。

(28e)の譲歩を現す接続形語尾「-(으/으)나」は、「ㅅ」と現れるが、次の(30)の1例がある

のみである。

- (30) 齒落_ㄴ未_ㅁ是無心人_ㄴ스_ㅁ? 舌存_ㅁ恥作窮途哭 / 니 싸디나 이 모습 업슨 사_ㄴ
미 아니로니 헤 이시니 窮困_ㄴ길헤서 우름_ㄴ호요물 붓그리노라 <19:20b_1>

(28f)の「-(ㄱ/ㅇ)니」は、原因や理由を現す接続形語尾であるが、「_ㅁ」およびその略字である「_ㅁ」の2種の表記で現れた。後者が前者よりはるかに多く現れる。

(28g)の「_ㄴㅁ_ㄴ」, 「_ㅁㅁ_ㄴ」は、原因や理由を現す接続形語尾「-(ㄱ/ㅇ)ㄴ_ㅁ」を含んだものである。「_ㅁ」の部分「_ㄴ」と2字で現れることから、「_ㅁ」の単母音化がまだ起こっていないであろうことを、ここでも推定することができよう。

(28h)と(28i)は「-(ㄱ/ㅇ)ㅁ_ㄴ」と「-(ㄱ/ㅇ)ㅁ_ㅁ」であるが、それぞれ「_ㅁ」と「_ㅁ」と現れる。前者の場合は、「_ㅁ」あるいは「_ㅁ」といった形態は見られなかった。ただし、原字はともに「彌」で共通している。

(28j)の「_ㅁㅁ_ㄴ」は、限度を現す接続形語尾「-ㄴ_ㅁ」を表示したものである。次の(31)の1例のみが見られた。

- (31) 走覓_ㅁ南隣愛酒伴_ㅁ經句_ㅁ出飲_ㅁ獨空牀_ㅁ / 남_ㅁ이우젯 술_ㅁ스랑_ㅁ
는 버들_ㅁ드라가 어더 열호리 디나_ㅁ드록 나가서 머구니_ㅁ호오사 平床이 뷔엇도다
<18:6b_2>

(28k)は連用形語尾の「-아/어」であるが、常に用言「_ㅁ」を伴って「_ㅁ」の形態で現れた¹⁸⁾。これに対して、(28l)の「-아도/어도」は、「_ㅁ」を伴わず、「_ㅁ」の形態で現れ、口訣字の使用に違いを見せた。

3.4. 連体形語尾

連体形語尾は、次の(32)の如くである。

- (32) -(ㄱ/ㅇ)_ㄴ 1, _ㅁ 1?

この(32)は、非常にまれにしか使われていない。次の(33)のような例である。

- (33) a. 繚以周墻_ㅁ스百餘_ㄴ里_ㅁ / 들엇_ㄴ담으로 百餘里를 버프렛_ㄴ나라 <17:25a_5>
b. 不是愛花_ㅁ卽欲死_ㅁ只恐花盡老_ㅁ?相催_ㅁ / 이 고졸 스랑_ㅁ야서 곧 죽고
저 호미 아니라 고지 업스면 늘구미 서르 비알가 오직 저혜니라 <18:8a_3>

このうち、(33b)は疑わしい例である。また、「_ㅁ 1」あるいは、「_ㅁ」, 「_ㅁ」などが連体形語尾として使われた例は見られなかった。従って、本資料においては、連体形語尾を懸吐すること自体がほとんどないものと見てもかまわないであろう。

18) ただし、この「_ㅁ」は、実際は「_ㅁ」である可能性もありその判読が難しい場合もあるが、ここでは一括して「_ㅁ」ととらえておいた。

3.5. 用言語幹

用言語幹は、次の(34)のように「ㅎ-」と「-이-」以外には見られなかった。

- | | | | |
|------|----|------------|--------|
| (34) | a. | <u>ㅎ-</u> | ㅏ-(*) |
| | b. | <u>호-</u> | ㅏ- |
| | c. | <u>-이-</u> | -ㅏ-(*) |

前述のように、(34b)の「ㅏ-」は、用言「ㅎ-」にいわゆる意図法の接尾辞「-오/우-」が接続し「호-」となったものと見なすため、ここに再掲した。ただし、用例は次の1例のみである。

- (35) 今我不樂思岳陽 ㅏㅏ 身欲奮飛 ㅏㅏ 病在床 / 이제 내 즐기디 아니 ㅎ야셔 岳陽
을 사랑 ㅎ노니 모미 ㅏ라가고져 ㅎ나 病 ㅎ야 床에 누어 잇노라 <19:18a_1>

3.6. 小倉文庫本にのみ見られる口訣

小倉文庫本にのみ見られる口訣についてここで別途整理すると、以下の(36)の通りである。

- | | | | |
|------|----|---------------------|------|
| (36) | a. | <u>-(으/으)ㄴ덴</u> | 印大1 |
| | b. | <u>-건마ㄴ/안마ㄴ/언마ㄴ</u> | ㅏ1ㄱ1 |
| | c. | <u>-아샤/어샤</u> | ㅏ也ㄱ |
| | d. | <u>-음/음</u> | 手勿乙 |

(36a)の「印大1」は、指定詞語幹「-이-」に条件を現す接続形語尾「-(으/으)ㄴ덴」がついた「인덴」を現したものである。

- (37) 今秋天地在 印大1 吾亦離殊方 / 이 마슬히 하늘과 싸왓 ㅏ시에 이시면 나도 쏘 다
ㄴ 싸흘 병으리외도리라 <小倉本 17:17a_4>

(36b)の「ㅏ1ㄱ1」は、讓歩を現す接続形語尾「-건마ㄴ/안마ㄴ/언마ㄴ」を現したものであるが、「ㄴ」音が省略された表記である。また、その用例である(38)を見て分かるように、非他動詞であるにもかかわらず、「ㅏ1ㄱ1」が現れている。

- (38) a. 天用 ㅏ莫如龍 ㅏ1ㄱ1 有時繫扶桑 / 하늘 쓰는 거슨 龍 ㅏㄴ 거시 업건마ㄴ 扶
桑에 덕일 저기 잇노니라 <小倉本 17:24a_5>
b. 地用莫如馬 ㅏ1ㄱ1 無良復誰記 / 사헛 뿌미 물만 곧흔 거시 업건마ㄴ 도티 아
니 ㅎ면 쏘 ㅏ 記錄 ㅎ리오 <小倉本 17:24b_4>

指定詞「-이-」が「ㅏ」を取った例についてはすでに上述した通りであるが、この(38)の例はそれ以外の非他動詞が「ㅏ」を取っている。用例数が2例に過ぎないが、非他動詞は「-거-」、他動詞は「-아/어-」を取る、と言った対立関係は、小倉文庫本には見られないものとひとまず考えておくことにする。

(36c)の「ㅏ也ㄱ」と(36d)の「手勿乙」は、次の(39)の同一の例文中に現れる。

- (39) 強 ㅏ也ㄱ 神乙迷 ㅏ 復 手勿乙 皂鵬前 ㅏ? 俊材早在蒼鷹上 / 精神을 고들파도 거

문 수의 알퓌 도라가물 迷失^ㅎ니니 俊傑^ㅎ 材質은 일 프른 매 우희 잇더니라 <小倉本 17:9a_3>

(36c)の「ッㄷㄷ」は、「^ㅎ야사」といった形態を現したものである。「야」を「ㅍ」ではなくその正字である「ㄷ」で現したのもそうであるが、強勢の補助詞「ㄷ」が現れるのもまた、中央博物館本には見られないものである。この「ㄷ」は、高麗時代の釈読口訣以来使われ続けている口訣であるが、中期朝鮮語のような「ㅍ」音を現しているのか、その先行音であると推定される「ㅍ」を現しているのかは不分明である。ただし、少なくとも現代朝鮮語のような「야」にまでは至っていないことは言えるであろう。

(36c)の「ㅍㄷㄷ」は、動名詞形語尾「-음/음」に対格助詞「-르/을/을/를/를」の結合した「-오물/우물」といった形態である。動名詞形語尾「-음/음」は、中央博物館本にもその例が見られず、2本中で唯一の例であると言える。

4. その他の特徴

ここでは、これらの資料に見られる口訣の諸特徴のうち、前章で扱わなかったものについて何点か見ていくことにする。

4.1. 校正符号

この資料には、口訣を誤った位置に懸吐した場合に、それを修正する目的で「○」を校正符号として使っている箇所がある。次の(40)のような例である。

- (40) a. 鵬礙九^ㄴ天須却避○/* 교정부호*/ 兎^ㄴㄷㄷ經三窟^ㄴ莫深憂^ㄷ / 鵬鳥^ㄴ 하^ㄴ를
 마려실식 모로매 도로혀 避홀디어니와 툃기^ㄴ 세 불 굶디 디나드러실식 기피
 시름 아니^ㅎ낫다 <17:12a_1>
- b. 長^ㄴㄴ安○/* 교정부호*/ 壯兒^ㄴ 不敢騎^ㄷ 走過掣電^ㄷ 傾城知 / 長安^ㄴ 健壯
 ㅎ 아히도 구퓌여 트디 못^ㅎ니니 마리타^ㄴ 번게를 디나 드로물 城中이 기울에
 모다 아^ㄴ다 <17:30b_2>

(40a)の例において、「兎」字に懸吐されている「ㄴㄷㄷ」は、本来なら「避」字に懸吐されるべき口訣である。その誤りを修正するために「避」字に「○」を記入したものである。(40b)の場合も同様で、「長」字に懸吐されている「ㄴㄴ」が本来は「安」字に懸吐されるべきものであるため、「安」に「○」を記入し、校正している。校正符号として「○」を利用するのは、他の資料にも広く見られるものであり、さらに、高麗時代の角筆による点吐口訣資料にも見られるものであるという¹⁹⁾。

19) 点吐口訣資料における校正符号としての「○」の使用は、とりわけ誠庵古書博物館所蔵の『瑜伽師地論』に多く見られるものであるという。張景俊(2009)参照。

4.2. ハングル口訣

この資料には、口訣をハングルで懸吐した例が若干ながら見られる。前に(14)で見た「ㄴ」以外には、以下のような例が見られた。

- (41) a. 行歩ㄷ 敬危 ㅍ 實怕春 ㅍㅍ, 갈가/* 한글토*/ 거러 든노물 기우려 어려워 호믄眞實로 보미 갈가 저헤니라 <18:6b_3>
- b. 詩ㅏ/* 좌측토*/酒 ㅍ/* 좌측토*/尙堪驅使在 ㅍ, 소/* 한글토?*/ 未須마론/* 한글토*/料理白頭人 ㅍㅍㅍ?, ㅍㅍㅍ/* 좌측토*/ 글와 수피 모라 브름이쇼물 오히려 이그리로소니 구퓌여 머리 셴 사르미라 호야 헤아리디 마롤디니라 <18:6b_4-7a_1>
- c. 故畦遺徳已蕩尽 니/* 한글토*/ 天寒歲暮波濤中 / 벗 이리멧 기튼 벗이사기 호마蕩盡 ㅎ니 하눌히 칩고 ㅎ 점글어늘 물겉 가운데 잇도다 <小倉本17:19a_2>

(41a)の例では、「春」字に「ㅍㅍ」という口訣とともに「갈가」というハングル口訣が懸吐されている。諺解文と対照してみると、ハングル口訣の「갈가」をまず読んだ後に、「ㅍㅍ」を読んだものと考えることができる。また(41b)では、「在」字に「ㅍㅍ」という口訣とともに「소」というハングル口訣が、「須」字には「마론」というハングル口訣が懸吐されている。この例も諺解文と対照してみると、「소」と「ㅍ」が合わさって「이쇼물」の末音を添記したものに相当すると考えられ、まずこれを読んだ後に「ㅍㅍ」を読んだものであり、後半の「마론」は、はっきりとはしないが、諺解文の「마롤디니라」に相当する懸吐であるものと考えことができよう。(41c)は小倉文庫本の例であるが、「尽」字に「니」というハングル口訣が懸吐されている。この詩の他の部分、さらにその前後の詩にもこれ以外の懸吐が全く見られず、ここにも「니」が懸吐されている理由は定かではないが、諺解文と対照してみても、原因や理由を現す接続形語尾の「-(으)니」を現している点は間違いないであろう。

これらの例とは性質を異にするのが、次の(42)の例である。

- (42) 郭欽 ㅍ 上書ㅍㅍ 見 현/* 한글토*/ 大計ㅍ 劉毅 ㅍ 答詔ㅍㅍ 驚群臣 / 郭欽이 上書 ㅎ야 큰 헤아료물 나토고 劉毅 詔書를 對答 ㅎ야 群臣을 놀래이니라 <19:22a_1>

(42)は原文の「見」字の傍らに「현」というハングルが記されている例であるが、これは「見」字の字音を示したものである。「見」には意味の違いにより「견」と「현」の2つの漢字音があるが、ここでは「現す」と言う意味の「현」であることを明示したものであると見られる。

4.3. 懸吐位置

他の音読口訣資料と同様、本資料においても口訣は漢字の右側に懸吐されるのが原則である。しかし変異的な位置に懸吐されたものもある。次の(43)～(44)がそうした例である。

- (43) a. 深知好顔色 ㅍㅍ 莫作委泥沙 ㅍ, 소/* 좌측토*/ ㄴㅍㅍ치 豆호물 기피 아노

니 泥沙에 버리어쇼물 ㄷ외디 마물디어다 <18:6a_3>

b. 無情移%/* 좌측토*/ 得汝ヒ?, ㄷ/* 좌측토*/ 貴在映江波 ㄷ, ㄷ/* 좌측토*/ // 너
를 옮겨 올 ㅅ디 업수문 ㄹ몹 옮겨를 비취여 이슈미 貴홀시니라 <18:3a_3>

(44) 舊入故園ㄷ嘗識主 ㄹ 如社日 ㄷ 遠看人 ㄷ/* 중앙토*/ // 네 故園에 드러 일즉 님
자홀 아더니 이제 社日에 머리 와 사ㄹ물 보ㄷ다 <17:16b_1>

(43a)は、「沙」字に記入された口訣「ㄷ」と「ㅅ」のうち、前者が右側に、後者が左側に懸吐されている例、(43b)は、「移」字に懸吐された口訣は判読が困難であるが、「汝」字には、右側に「ヒ」が、左側には「ㄷ」が懸吐され、最後の「波」字には両側に「ㄷ」が懸吐されている例である。さらに(44)は、「ㄷ」が「人」字の中央部分に懸吐されている。このような懸吐の位置のみにおいても、釈読口訣的な要素の一つであるとも言い得るものであるが、ここでまた重要なのは、(43)～(44)のいずれの例においても、「ㄷ」が懸吐されている、という点である。これについては、次の4.4で述べることにする。

4.4. 「ㄷ」の懸吐

この資料に懸吐された口訣の最も大きな特徴は、対格助詞「ㄷ」の懸吐様相である。「ㄷ」が句末の位置に懸吐された例が数多く見られるためである。次の(45)のような例である。

(45) a. 偶經花藥ㄷ弄輝輝 ㄷ / 偶然히 고졸 디나가 빛나물 ㅎ놀이눅다 <17:38b_3>

b. 湖南爲客動經春ㄷ燕子嘯泥兩度新 ㄷ / 湖南에 나그네 ㄷ외야신다마다 보물
디내요니 저비 홀굴 ㄹ러 두 버늘 새롭도다 <17:16a_6>

舊入故園ㄷ嘗識主 ㄹ 如社日 ㄷ 遠看人 ㄷ/* 중앙토*/ // 네 故園에 드러 일즉
님자홀 아더니 이제 社日에 머리 와 사ㄹ물 보ㄷ다 <17:16b_1>

可憐處處 ㄷ 巢居室ㄷ 何異飄飄託此身 ㄷ / 可히 슬프다 곧마다 사느 지브
와 깃ㅎㄷ니 飄飄히 이 모물 브터습과 어느 다ㄹ료 <17:16b_2>

暫語船檣 ㄷ? 還起去ㄷ 穿花落水 ㄷ益霑巾 ㄷ / 잠간 빛대에서 말ㅎ고 도로
니러 가 고졸 들워 ㄹ레 디어늘 더욱 ㄷ므를 手巾에 저지노라 <17:16b_3>

c. 深知好顔色 ㄷ 莫作委泥沙 ㄷ, ㅅ/* 좌측토*/ // ㄷ비치 ㄷ호물 기피 아노
니 泥沙에 버리어쇼물 ㄷ외디 마물디어다 <18:6a_3>

(45a)の例では、「輝」字に「ㄷ」が懸吐されているが、諺解部分では「빛나물 ㅎ놀이눅다」となっていることから、漢文の原文も句末の「輝」の部分をもとまず読んで、その後に「弄」を読むように口訣を懸吐したのではないと思われる。

(45b)は、1つの詩全体を示したものである。第1句、第2句、そして第4句の句末部分にやはり「ㄷ」が懸吐されている。同様に、目的語をまず読んだ後に述語を遡って読むように口訣を懸吐したものと見られる。この例において、第2句の「ㄷ」が「人」字の右側ではなく中央

部分に記入されているのも、こうした推定を裏付ける一つの根拠になり得るものと考えられる。

(45c)の例は、「沙」字の右側に「ㄷ」が、左側に「ㅅ」が懸吐されている。従って、これもやはり、そうした推定を支持する好例であると言えよう。

また、こうした例は、次の(46)の例のように、小倉文庫本においても見られるものである。

- (46) 強^ㅅㅅ^ㅅ神^ㄷ迷^ㅅㅅ^ㅅ復^ㅅㅅ^ㅅ勿^ㅅㅅ^ㅅ皂^ㅅ鵬^ㅅ前^ㅅㅅ? 俊材早在蒼鷹上 / 精神을 고들 파도 거
 문 수리 알피 도라가물 迷失^ㅅㅅ^ㅅ니 俊傑^ㅅㅅ 材質은 일 프른 매 우희 잇더니라 <小倉
 本 17:9a_3>

この例は、上記の(39)に挙げたものと同一の例であるが、「神」に付された「ㄷ」をまず読んだ後に遡って「強」を読むように、「復」に付された「ㅅ勿ㅅ」を読んだ後に遡って「迷」を読むように口訣が懸吐されている点、その特徴は(45)の中央博物館本と同様である。

このように、これら2本の資料においては、漢文の順序を一部入れ替えて、朝鮮語の語順でもって返読をしていた痕跡が認められる。これは言うまでもなく積読口訣的な特徴の1つであり、それも、最も重要な特徴の1つであると言い得るものである。

ただし、こうした現象が対格助詞の「ㄷ」の例のみで見られるというのは、若干特異な現象であるとも言わなければならないだろう。その原因や原理については、今後更なる考察が必要であると思われる。

5. おわりに

以上、初刊本『杜詩諺解』のうち、韓国国立中央博物館所蔵の巻17～19、および、東京大学文学部言語学研究所蔵の巻17に墨書でもって懸吐された口訣について概観した。基本的には他の音読口訣資料に見られる諸特徴と大きく変わるところはないが、いくつかの点においては、積読口訣的な要素も認められた。とりわけ、句末に「ㄷ」を懸吐し、前に遡って返読をしていたと見られる点は、積読口訣的な要素の中でも最も重要な要素の1つであり、こうした例が見られる点は特記すべき特徴であると言えよう。

従来、墨書による積読口訣資料としては、高麗時代のもの信じられる資料が5種ほど知られており、活発な研究がなされてきたが、この5種以外の資料からも、断片的ながら訓読の痕跡を見つけ出そうとする努力が見られる²⁰⁾。さらに、李朝時代にも訓読の痕跡が見られる資

20) 従って、高麗時代の墨書による積読口訣資料は、より正確に記せば、7種ということになる。すなわち、全巻に渡って積読口訣が施されている『旧訳仁王経』巻上、『新訳華嚴経疏』巻35、『新訳華嚴経』巻14、『合部金光明経』巻3、『瑜伽師地論』巻20の他に、均如[923～973年]の『积華嚴教分記』に残されている2文、および角筆による点吐口訣資料として知られている誠庵古書博物館所蔵『旧訳華嚴経』巻20の欄上に墨書で施された1文である。『积華嚴教分記』の積読口訣については安秉禧(1987/1992a)、『旧訳華嚴経』巻20の積読口訣については鄭在永(2003)を参照。

料が何点か知られ、学界に報告されている²¹⁾。しかし、これら以外にも、従来、音読口訣資料として知られているものの中には、懸吐の特徴を仔細に検討してみると、その中から釈読口訣的な特徴を見出すことのできる資料もまた、少なからず存在している²²⁾。本稿で扱った初刊本『杜詩諺解』もまた、そうした資料の1つであるということができ、いずれにしても、この種の資料に見られる訓読現象については、資料の紹介がなされたものであっても、単なる紹介にとどまる場合が多く、具体的な検討はほとんどなされていないのが実情で、その研究は著しく立ち遅れていると言わざるを得ない。そうした点において、本稿のような研究は、朝鮮においてかつて存在していた漢文訓読の姿を解明する上で、その一部となり得るであろうと思われる。

また、従来の口訣研究は、何よりも仏書を中心にして行われてきたと言える。仏書以外でも儒教の経書などが対象にされるばかりであり、本稿の初刊本『杜詩諺解』のような詩歌資料、それも漢詩資料がその研究対象にされることはほとんどなかったのではないと思われる。さらに、初刊本『杜詩諺解』には、他の多くの中期朝鮮語諺解資料とは異なり、漢文の原文に印字によるハングル口訣が施されていないため、漢文の原文自体を読む際に、どのような読法でもって読んでいたのか不明な点もあったように思われる。こうした点においても、本稿で見たような墨書による口訣の懸吐は、その読法的一端を示しているものとも考えることもできるであろう。すなわち、本稿の結果のように、音読口訣による直読を基本としつつも、また一方で訓読をしていた痕跡も認められる点は、朝鮮における漢詩読法の姿を反映しているのではないかとも思われるのである。

杜甫の漢詩に口訣が施された資料としては、本稿で扱った初刊本『杜詩諺解』以外に、後世の資料である韓国学中央研究院蔵書閣所蔵の『杜草堂詩』と、澤風堂李植の『杜詩批解』にも見られるという²³⁾。これらの資料に現れる口訣の特徴も合わせて検討することにより、朝鮮における漢詩読法の姿が、よりいっそう明らかになるものと思われる。この点については、今後の課題としておくことにする。

21) 安秉禧(1976a/1992a)や藤本幸夫(1992, 1993), 南豊鉉・沈在箕(1976/1999)など参照。

22) 一例としては、南豊鉉・沈在箕(1976/1999)に紹介されている韓国国立中央図書館所蔵『円覚経』、檀国大学校東洋学研究所所蔵『楞嚴経』、前通文館、現孫某氏所蔵『楞嚴経』、沈在箕(1976)に紹介されている韓国国立中央博物館所蔵長谷寺『法華経』、李丞宰(1993)に紹介されている大邱の某氏所蔵『法華経』、藤本幸夫(1992)に紹介されている志部昭平氏旧蔵『法華経』、1996年に韓国精神文化研究院より『口訣資料集三』として影印出版され朴盛鍾(1996)の解題が付された宋成文氏所蔵『楞嚴経』など、いくつもの資料が知られている。さらに、従来さほど言及されていない資料でも、たとえば、韓国国立中央博物館所蔵『楞嚴経』[宝物759号]などにも見られ、この種の資料は他にも数多く存在しているものと思われる。

23) 李賢熙(1998)参照。

参考文献

- 菅野裕臣 (1981), 「口訣研究 (一)」, 『東京外国語大学論集』 31, 東京外国語大学
- 福井 玲 (1987), 「初刊本杜詩諺解について」, 『東京大学言語学論集 '87』, 東京大学文学部言語学研究室
- 福井 玲 (2002), 「小倉文庫目録」, 『朝鮮文化研究』 9, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部朝鮮文化研究室
- 藤本幸夫 (1992), 「李朝訓読攷 其一 - 『牧牛子修心訣』 を中心にして -」, 『朝鮮学報』 143, 朝鮮学会
- 藤本幸夫 (1993), 「한국의 訓讀에 대하여」, 서울대학교 大學院 國語研究會 編 『安秉禧先生 回甲紀念論叢 國語史 資料와 國語學의 研究』, 文學과 知性社
- 高永根 (1980), 「中世語의 語尾活用に 나타나는 ‘거 / 어’ 의 交替에 대하여」, 『國語學』 9, 國語學會
- 南豊鉉 (1977), 「國語 處格助詞의 發達 - 舊譯仁王經의 口訣을 중심으로 -」 [南豊鉉 (1999) に再収録]
- 南豊鉉・沈在箕 (1976), 「舊譯仁王經의 口訣研究 (一)」 [南豊鉉 (1999) に再収録]
- 南豊鉉 (1999), 『國語史를 위한 口訣研究』, 太學社
- 朴盛鍾 (1996), 「解題」, 『口訣資料集三 - 朝鮮初期 楞嚴經 -』, 韓國精神文化研究院
- 沈在箕 (1976), 「長谷寺法華經의 口訣」, 『美術資料』 19, 國立中央博物館
- 安秉禧 (1968), 「中世國語의 屬格語尾 ‘ハ’ 에 대하여」 [安秉禧 (1992a) に再収録]
- 安秉禧 (1976a), 「口訣과 漢文訓讀에 대하여」 [安秉禧 (1992a) に再収録]
- 安秉禧 (1976b), 「中世語의 한글資料에 대한 綜合的 考察」 [安秉禧 (1992b) に再収録]
- 安秉禧 (1977), 『中世國語口訣의 研究』, 一志社
- 安秉禧 (1987), 「均如의 方言本 著述에 대하여」 [安秉禧 (1992a) に再収録]
- 安秉禧 (1992a), 『國語史 研究』, 文學과 知性社
- 安秉禧 (1992b), 『國語史 資料 研究』, 文學과 知性社
- 安秉禧 (2004), 「『杜詩諺解』 권 17-19 影印 解題」, 『韓國語研究』 2, 韓國語研究會
- 尹容善 (1993), 「杜詩諺解」, 서울대학교 大學院 國語研究會 編 『安秉禧先生 回甲紀念論叢 國語史 資料와 國語學의 研究』, 文學과 知性社
- 李基文 (1962), 「中世國語의 特殊 語幹 交替에 대하여」, 『震檀學報』 23, 震檀學會
- 李丞宰 (1993), 「麗末鮮初의 口訣資料」, 서울대학교 大學院 國語研究會 編 『安秉禧先生 回甲紀念論叢 國語史 資料와 國語學의 研究』, 文學과 知性社
- 李賢熙ほか (1997a), 『杜詩와 杜詩諺解 6』, 신구문화사
- 李賢熙ほか (1997b), 『杜詩와 杜詩諺解 7』, 신구문화사
- 李賢熙 (1998), 「언해자료 『杜律分類』 와 『杜草堂詩』 에 대한 고찰」, 한국정신문화연구원 인문연구실 編 『杜詩와 杜詩諺解 研究』, 대학사
- 李浩權 (2008), 「『杜詩諺解』 권 3 影印 解題」, 『韓國語研究』 5, 韓國語研究會
- 張景俊 (2009), 「湖林本 『瑜伽師地論』 卷三의 點吐口訣에 사용된 符號에 대하여」, 『國際워크숍 漢字情報と漢文訓讀 予稿集』, 北海道大学大学院文学研究科
- 鄭在永 (2003), 「晉本 『華嚴經』 卷二十의 書誌와 角筆 符號口訣에 대하여」, 鄭在永 外 『韓國 角筆 符號口訣 資料와 日本 訓點 資料 연구 - 華嚴經 資料를 중심으로 -』, 대학사

注記

本稿は、平成22～23年度科学研究費補助金若手研究(B)「漢文訓読の観点から見た中期朝鮮語諺解資料に関する新研究」[課題番号22720153]による研究成果の一部である。

資料1 韓国国立中央博物館所蔵本 口訣 KWIC索引

可	可轉欵側ッヒ	此豈有意仍騰驤{可}	細看六印ッヒ帶官字ッヒ	衆	<17:27a_2>
可	紉之巨乙	欵動\々{可}	轉欵側ッヒ	此豈有意仍騰驤	<17:27a_2>
可	如何貴此%重	却怕有乙{可}	*斗々斗*/人%知%		<18:2b_3>
巨	江上人家桃樹枝\	春寒{巨}乙	細雨々\	出疎籬乙	影遭碧
巨	紉之{巨}乙	欵動\々	可轉欵側ッヒ	此	<17:27a_2>
巨	星宮之君1	醉瓊漿{巨}乙?	羽人稀少ッ?	不在傍	似
巨	洛陽大道\	時再清{巨}乙	果日乙	喜得俱	東行
ロ	一聞説盡急難材ッ	{ロ}	轉益愁向	驚駘輩	頭上
ロ	杜陵翁翁\	秋繫船ッ	{ロ}?	扶病相識	長沙驛
ロ	強梳白髮	々?	提胡盧ッ	{ロ}	手兼菊花路
ロ	市北肩輿	々	每聯袂ッ	{ロ}	郭南々\
古	昔隨劉氏	乙?	定長安{古}?	帷幄乙	未改々乙
古	祗收壯健勝鐵甲{古}?	豈因格闘ッ?	求龍駒	而今	
古	茲空長大枝葉ッ	々	結根\	失所{古}	纏風霜
古	々\	巢居室ッ	ヒ	何異飄飄託此身{古}	暫語船檣
古	鴻飛冥冥	五	日月白	青楓\	葉赤{古}
古	誰家々\	且養{古}	願終息ッ?	更試明年	春草長
古	載酒開金盞ッ	喚取佳人	舞繡筵{古}	黃師塔前	江水東々\
古	上書ッ	見현/*한글도*/	大計ッ	{古}	劉毅\
古	使我	又	晝立ッ	煩兒孫ッ	{古}
古	皮乾	脱落	泥滓ッ	{古}?	毛暗
古	國家成敗	乙	吾豈敢{古}?	色難腥腐	々
古	盈把1	那須	滄海珠{古}?	入懷1	本倚
古	1	非	欵柳	々	青青
古	豈知	異物\	又	々	同精氣{古}?
古	軍符	ト	侯印乙	取豈遲{古}?	紫ト
古	豈有	四蹄\	疾於鳥\	{古}?	不與
古	無數	將軍	々	西第成ッ	{古}
古	授鉞ッ	{古}	築壇乙	聞意旨ッ	ヒ
古	齒落\	{古}	未是	無心人\	又
古	飽聞	欵木\	三年大	又	々
古	使我	又	晝立ッ	煩兒孫ッ	古
古	使我	又	晝立ッ	煩兒孫ッ	古
古	左輔	白沙{古}	如白水\	繚以	周墻乙
古	泉出	巨魚	長比人ッ	丹砂{古}	作尾
古	青糸{古}	絡頭ッ	爲君	老乙	何由
古	忽疑	行%暮	雨々	何事{古}	入朝霞
古	報答	春光\	知有	處又	乙
古	青糸	又	絡頭ッ	爲君	老乙
古	市北	肩輿{古}	每	聯袂ッ	ロ
古	以茲{古}	報	主寸	心赤ッ	ヒ
古	馬\	臨陣ッ	久	無敵ッ	ヒ
古	下詔ッ	喧	都邑ッ	ヒ	肯使
古	虞羅	自	各	虛施	巧ッ
古	左輔	白沙	又	如	白水\
古	一生	々\	自	獵乙	知
古	四蹄	\	疾於	鳥\	日
古	飽聞	欵木\	三年大	又	々

又	影遭碧水潛勾引{又}ヒ? 風妬紅花却倒吹% 吹花困	<18:3b_1>
又	絶知春意早{又}ヒ 最奈客愁何 雪樹元同色	<18:5a_2>
又	報答春光、知有處{又}ヒ 応須美酒又送生涯乙 東望	<18:7a_4>
又	深知好顔色、{又}ヒ 莫作委泥沙乙, 今夕/*斗奇	<18:6a_3>
又	齒落、未是無心人、{又}ヒ? 舌存ッヒ恥作窮途哭 道	<19:20b_1>
又	恐是潘安縣、{又}ヒ 堪留衛玠車乙 深知好顔色	<18:6a_2>
又	蓋千年意ッフ 爲覓霜根數寸栽ッヒ	<18:22a_4>
又	致君堯舜乙付公等ッヒ? 早據要路ッフ思捐軀ッハ	<19:23b_3>
又	滄江白髮愁看汝ッヒ 來歲如今、歸未歸阿	<17:38b_4>
又	念茲空長大枝葉ッヒ? 結根、失所古纏風霜	<18:1b_2>
又	今我不樂思岳陽ッヒ 身欲奮飛ノヤ?病在床 美	<19:18a_1>
又	豈知異物、{又}ヒ 同精氣日 雖未成龍今刀?	<17:26b_3>
又	江湖後搖落ッヒヒ 亦恐歲蹉跎ッヒ	<18:10a_8-10b_1>
又	黑鷹 1 不省人間有{又}小ヒ 度海ッフ疑從北極來乙	<17:12a_2>
ト	稠花{ト}亂藥裏江浜ッヒ 行步乙欵危	<18:6b_3>
ト	授鉞ッホ築壇乙聞意旨ッヒ 頽綱{ト}?漏網乙期弥綸 郭欽、上書ッ	<19:21b_3>
ト	軍符ト侯印乙取豈遲日 紫{ト}燕駮耳行甚速 聖朝ノ尚飛戰	<19:21a_4>
ト	詩{ト}/*斗奇斗*/酒矣/*斗奇斗*/尚	<18:6b_4-7a_1>
ト	軍符{ト}侯印乙取豈遲日 紫ト燕駮	<19:21a_4>
ヒ	雄姿 1 未受伏櫪恩{ヒ} 猛氣 1 猶思戰場利 腕促蹄高	<17:30a_3>
ヒ	昔隨劉氏{ヒ}?定長安古? 帷幄乙未改今乙	<19:19a_3>
ヒ	鳳臆龍髻乙?未易識{ヒ} 側身注目ッヒ長風生	<17:31b_5-32a_1>
ヒ	不露文章{ヒ}?世已驚ッヒヒ 未辭剪伐%誰	<18:13a_3>
ヒ	雪樹元同色{ヒ} 江風亦自波乙 故園不可見ハ	<18:5a_3>
ヒ	一生今、自獵乙知無敵{ヒ} 百中乙又爭能ハ 恥下韉乙 鵬	<17:11b_3>
ヒ	無情移%/*斗奇斗*/得汝{ヒ}?, 乙/*斗奇斗*/ 貴在映江波	<18:3a_3>
ヒ	万里%寒空乙抵一日{ヒ} 金眸玉%瓜、不凡材乙 催宗	<17:12b_2>
ヒ	青糸又絡頭ッフ爲君老{ヒ} 何由又却出橫門道 五	<17:30b_3>
ヒ	丈人駿馬 1 名胡驪{ヒ} 前年今、避胡過金牛ッフ 廻	<17:31a_1>
ヒ	影遭碧水潛勾引又{ヒ}? 風妬紅花却倒吹% 吹花困懶	<18:3b_1>
ヒ	絶知春意早又{ヒ} 最奈客愁何 雪樹元同色ヒ	<18:5a_2>
ヒ	報答春光、知有處又{ヒ} 応須美酒又送生涯乙 東望少	<18:7a_4>
ヒ	深知好顔色、又{ヒ} 莫作委泥沙乙, 今夕/*斗奇斗	<18:6a_3>
ヒ	齒落、未是無心人、又{ヒ}? 舌存ッヒ恥作窮途哭 道州	<19:20b_1>
ヒ	恐是潘安縣、又{ヒ} 堪留衛玠車乙 深知好顔色、	<18:6a_2>
ヒ	千年意ッフ 爲覓霜根數寸栽ッヒ	<18:22a_4>
ヒ	致君堯舜乙付公等ッヒ? 早據要路ッフ思捐軀ッハ	<19:23b_3>
ヒ	滄江白髮愁看汝ッヒ 來歲如今、歸未歸阿	<17:38b_4>
ヒ	念茲空長大枝葉ッヒ? 結根、失所古纏風霜	<18:1b_2>
ヒ	今我不樂思岳陽ッヒ 身欲奮飛ノヤ?病在床 美人	<19:18a_1>
ヒ	不露文章ヒ?世已驚ッヒヒ 未辭剪伐%誰能送 苦心豈免	<18:13a_3>
ヒ	吾聞良 1 驪老始成ッヒヒ? 此馬、數年、人更驚 豈	<17:29a_3>
ヒ	江湖後搖落ッヒヒ 亦恐歲蹉跎ッヒ	<18:10a_8-10b_1>
ヒ	傾壺簫管ハ動白髮ッヒヒ 舞劍ッハ霜雪、吹青春 宴筵	<19:22b_1>
ヒ	忽疑行%暮雨ハ{ヒ} 何事又入朝霞 五 恐是潘安縣	<18:6a_1>
ヒ	黑鷹 1 不省人間有又小{ヒ} 度海ッフ疑從北極來乙 正翻	<17:12a_2>
ヒ	斗*/酒矣/*斗奇斗*/尚堪驅使在、{ヒ}, 少?/*한글斗*/乙 未須마론/	<18:6b_4-7a_1>
ヒ	廻鞭却走ッフ見天子、{ヒ}? 朝飲漢水 五暮靈州 自矜胡	<17:31a_2>
ヒ	龍媒昔是涅注種、{ヒ} 汗血今稱獻於此 苑中駮牝三	<17:25a_6>
ヒ	始知神龍 1 別有%種、{ヒ} 不比俗馬矣空多肉 洛陽大道	<17:31b_3>

ヒ	周南留 <small>一</small> 滯古所惜 <small>レ</small> {ヒ}	南極老人、応壽昌 美人 <small>一</small> 胡	<19:19b_2>
ヒ	黎元愁痛、會蘇息 <small>レ</small> {ヒ}	夷狄跋扈 <small>一</small> 徒逡巡 授鉞 <small>ッ</small> ホ	<19:21b_2>
ヒ	士卒多騎内廐馬 <small>レ</small> {ヒ}	惆悵%恐是病乘黃 当時歷塊	<17:27b_2>
ヒ	他日更僕 <small>ッ</small> 語不淺 <small>レ</small> {ヒ}	明公矣論兵、氣益振 傾壺簫	<19:22a_2>
ヒ	聞道南行 <small>ッ</small> 市駿馬 <small>ヲ</small> {ヒ}	不限疋數 <small>ッ</small> 軍中須 襄陽幕	<17:32a_3>
ヒ	直苦風塵暗 <small>ッ</small> {ヒ}	誰憂客鬢催 <small>ヱ</small>	<18:5b_3>
ヒ	襄陽幕府、天下異 <small>ッ</small> {ヒ}	主將、儉省 <small>ッ</small> 憂艱虞 祗收	<17:32a_4>
ヒ	細看六印 <small>ッ</small> {ヒ}	帶官字 <small>ッ</small> 衆道三軍、遺路	<17:27a_3>
ヒ	東望少城 <small>ッ</small> 花滿煙 <small>ッ</small> {ヒ}	百花高樓 <small>ヒ</small> 更 <small>一</small> 更可憐 <small>乙</small> 誰能	<18:7a_5>
ヒ	此時亦、對雪遙相憶 <small>ッ</small> {ヒ}	送客逢春 <small>ハ</small> 可自由 <small>阿</small> 幸不折	<18:4b_1>
ヒ	朝來亦、少試華軒下 <small>ッ</small> {ヒ}	未覺千金、滿高価 赤汗、微	<17:28b_3>
ヒ	百草、競春華 <small>ッ</small> {ヒ}	麗春、応最勝 <small>乙</small> 少須好顔色	<18:2a_5>
ヒ	安○/*교정부호*/壯兒 <small>ヲ</small> 不敢騎 <small>ッ</small> {ヒ}	走過掣電 <small>乙</small> 傾城知 青糸又絡	<17:30b_2>
ヒ	憶 <small>一</small> 初尉永嘉去 <small>ッ</small> {ヒ}?	紅顔白面 <small>今</small> 、花映肉、 <small>尼</small> ハ	<19:21a_3>
ヒ	東閣官梅動詩興 <small>ッ</small> {ヒ}	還如何遜、在揚州 <small>乙</small> 此時亦	<18:4a_3>
ヒ	逸群絶足、信殊傑 <small>ッ</small> {ヒ}	個儻權奇 <small>乙</small> 難具論 纍纍顧卓	<17:26a_2>
ヒ	深栽小齋後 <small>ッ</small> {ヒ}	庶使幽人%占 晚墮蘭麝中 <small>ッ</small>	<18:2a_2>
ヒ	驢驕一骨、獨当御 <small>ッ</small> {ヒ}	春秋二時亦、歸至尊 至尊内	<17:25b_4>
ヒ	虞羅自各虛施巧 <small>ッ</small> {ヒ}	春鴈 <small>乙</small> 又同歸 <small>ッ</small> 必見猜 <small>乙</small>	<17:12a_4-12b_1>
ヒ	正翻搏風超紫塞 <small>ッ</small> {ヒ}	玄冬 <small>今</small> ?幾夜 <small>今</small> 、宿陽台 <small>ヱ</small>	<17:12a_3>
ヒ	似聞昨者赤松子 <small>ッ</small> {ヒ}	恐是漢代韓張良 <small>乙</small> 昔隨劉氏	<19:19a_2>
ヒ	授鉞 <small>ッ</small> ホ築壇 <small>乙</small> 間意旨 <small>ッ</small> {ヒ}	頽綱ト?漏網 <small>乙</small> 期弥綸 郭欽	<19:21b_3>
ヒ	道州手札、適复至 <small>ッ</small> {ヒ}	紙長 <small>ッ</small> 要自三過讀 盈把 <small>一</small>	<19:20b_2>
ヒ	細看六印 <small>ッ</small> 帶官字 <small>ッ</small> {ヒ}	衆道三軍、遺路傍 皮乾剝落	<17:27a_3>
ヒ	可憐處 <small>今</small> 、巢居室 <small>ッ</small> {ヒ}	何異飄飄託此身 <small>キ</small> 暫語船檣	<17:16b_2>
ヒ	体弱 <small>ッ</small> {ヒ}	春苗早 <small>ヱ</small> 叢長 <small>ッ</small> 夜露多 <small>乙</small>	<18:10a_6>
ヒ	丁香体柔弱 <small>ッ</small> {ヒ}	亂%結%枝猶墊 細葉帶浮毛	<18:1b_5>
ヒ	桃花一簇開無主 <small>ッ</small> {ヒ}	可愛深紅 <small>ヱ</small> 愛淺紅 <small>乙</small> 黃四娘	<18:7b_3>
ヒ	卿家旧物 <small>乙</small> 公能取 <small>ッ</small> {ヒ}	天廐 <small>一</small> 眞龍、 <small>ヱ</small> 此其亞 晝	<17:29a_1>
ヒ	撥棄潭州百斛酒 <small>ッ</small> {ヒ}	無沒瀟岸千株菊 使我又晝立	<19:20b_4-21a_1>
ヒ	美人、娟娟隔秋 <small>ッ</small> {ヒ}	水 濯足洞庭 <small>ヱ</small> 望八荒 鴻飛冥	<19:18a_2>
ヒ	雲飛玉立 <small>ッ</small> 盡清秋 <small>ッ</small> {ヒ}	不惜奇毛 <small>ッ</small> 忝遠遊 <small>乙</small> 在野	<17:11b_1>
ヒ	湖南爲客動經春 <small>ッ</small> {ヒ}	燕子喙泥兩度新 <small>乙</small> 旧入故園	<17:16a_6>
ヒ	久客 <small>ハ</small> 多枉友朋書 <small>ッ</small> {ヒ}	素書、一月凡一束 虛名但蒙	<19:20a_1>
ヒ	東郊瘦馬、使我傷 <small>ッ</small> {ヒ}	骨骼、硨兀 <small>ッ</small> 如堵墻 絆之	<17:26b_5-27a_1>
ヒ	東望少城 <small>ッ</small> {ヒ}	花滿煙 <small>ッ</small> 百花高樓 <small>ヒ</small> 更	<18:7a_5>
ヒ	少須好顔色 <small>ッ</small> {ヒ}?	多漫枝條剩 <small>阿</small> 紛紛桃李枝	<18:2b_1>
ヒ	五色、散作雲滿身 <small>ッ</small> {ヒ}	万里亦、方看汗流血 長 <small>今</small> 、	<17:30a_5-30b_1>
ヒ	泉出巨魚長比人 <small>ッ</small> {ヒ}	丹砂又作尾 <small>ヱ</small> ?黄金鱗 豈知	<17:26b_2>
ヒ	聖朝 <small>一</small> 尙飛戰鬪塵 <small>ッ</small> {ヒ}	濟世%宜引英俊人、 <small>ヒ</small> ハ 黎	<19:21b_1>
ヒ	雨洗 <small>ッ</small> ヒ娟娟淨 <small>レ</small> 五 風吹 <small>ッ</small> {ヒ}	細細香 <small>乙</small> 但令無剪伐 <small>ッ</small> ハ 會	<18:10b_6>
ヒ	以茲又報主寸心赤 <small>ッ</small> {ヒ}	氣却西戎 <small>ヱ</small> ?廻北狄 羅網群	<17:33a_3>
ヒ	暫時花戴雪 <small>ッ</small> {ヒ}	幾處 <small>今</small> 、葉沈波 <small>ヱ</small> 体弱 <small>ッ</small> ヒ	<18:10a_5>
ヒ	雨洗 <small>ッ</small> {ヒ}	娟娟淨 <small>レ</small> 五 風吹 <small>ッ</small> ヒ細細香	<18:10b_6>
ヒ	忽驚屋裏琴書冷 <small>レ</small> 五 復亂簷前 <small>ッ</small> {ヒ}	星宿稀 <small>乙</small> 却繞井欄 <small>ッ</small> 添箇	<17:38b_2>
ヒ	附書与裴 <small>ヱ</small> 因示蘇 <small>ッ</small> {ヒ}	此生 <small>ハ</small> 已愧須人扶 致君堯舜	<19:23b_2>
ヒ	絆之 <small>乙</small> 欲動 <small>ハ</small> 可轉欵側 <small>ッ</small> {ヒ}	此豈有意仍騰驥可 細看六印	<17:27a_2>
ヒ	落、 <small>ハ</small> 未是無心人 <small>レ</small> 又 <small>ヒ</small> ? 舌存 <small>ッ</small> {ヒ}	恥作窮途哭 道州手札、適复	<19:20b_1>
ヒ	羅網群馬 <small>ッ</small> 籍馬多 <small>ッ</small> {ヒ}	氣在驅除、 <small>乙</small> ハ、出金帛 劉	<17:33a_4>
ヒ	鄧公矣馬癖 <small>乙</small> 人共知 <small>ッ</small> {ヒ}	初得花驄 <small>ッ</small> ヒ大宛種 夙昔伝	<17:28a_3>

ヒ	功成惠養 ヲ 隨所致 ヲ {ヒ}	飄飄遠自流沙至 雄姿 1 未受	<17:30a_2>	
ヒ	晚墮蘭麝中 ヲ {ヒ}	休懷粉身念%	<18:2a_3>	
ヒ	体弱 ヲ ヒ 春苗早 五 叢長 ヲ {ヒ}	夜露多 乙 江湖後搖落 ヲ ヒ ヒ	<18:10a_6>	
ヒ	此馬、臨陣 ヲ 久無敵 ヲ {ヒ}	与人 乙 又 一心 ヲ 成大功 功	<17:30a_1>	
ヒ	玉京群帝集北斗 ヲ {ヒ}	或騎麒麟%翳鳳凰 芙蓉旌旗	<19:18b_2>	
ヒ	龍媒眞種 1 在帝都 ヲ {ヒ}	子孫、未落西南隅 向非戎事	<17:32b_2>	
ヒ	華軒、藹藹他年到 ヲ {ヒ}	縣竹、亭亭出縣高 乙 江上舍	<18:11a_3>	
ヒ	在野 々、只教心力破 ヲ {ヒ}	干人、何事 々 乙 網羅求 五 一	<17:11b_2>	
ヒ	梅葉臘前破 ヲ {ヒ}	梅花年後多 乙 絶知春意早 又	<18:4b_5-5a_1>	
ヒ	巫山秋夜 々、螢火飛 ヲ {ヒ}	簫疎 々、巧入坐人衣 乙 忽驚	<17:38b_1>	
ヒ	稠花 卜 亂葉裏江浜 ヲ {ヒ}	行步 乙 欽危 ヒ 1 實怕春 ヒ 々、	<18:6b_3>	
ヒ	江上舍前 ヒ 1 無此物 ヲ {ヒ}	幸分蒼翠 ヲ 拂波濤 ヲ 々	<18:11a_4>	
ヒ	楚草經寒碧 ヲ {ヒ}	庭春入眼濃 乙 旧低%/*斗々	<18:9b_2>	
ヒ	天寒遠放 ヲ {ヒ}	鴈爲伴、 五 日暮不收 ヲ ヒ 烏	<17:27b_5>	
ヒ	食之豪健、西域無 ヲ {ヒ}	每歲攻駒、冠邊鄙 王有虎臣	<17:25b_2>	
ヒ	赤汗、微生白雪毛 ヲ {ヒ}	銀鞍 々、却覆香羅帕 卿家旧	<17:28b_4>	
ヒ	鳳臆龍髻 乙?未易識 ヒ	側身注目 ヲ {ヒ}	長風生 <17:31b_5-32a_1>	
ヒ	虛名但蒙寒暄問 ヲ {ヒ}	泛愛 々 不救溝壑辱 齒落、 刃	<19:20a_2>	
ヒ	王有虎臣、司苑門 ヲ {ヒ}	入門天厩 々、皆雲屯 驢驕一	<17:25b_3>	
ヒ	角壯、翻同麋鹿遊 ヲ {ヒ}	浮深 ヲ 簾蕩鼉鼉窟 泉出巨	<17:26b_1>	
ヒ	近聞下詔 ヲ 喧都邑 ヲ {ヒ}	肯使麒麟 乙 又地上行	<17:29b_2>	
ヒ	草堂壻西 々、無樹林 ヲ {ヒ}	非子 々 誰復見幽心 五 飽聞櫓	<18:22b_2>	
ヒ	劉侯、奉使 々 光推擇 ヲ {ヒ}	滔滔才%略 1 滄溟窄 杜陵老	<17:33a_5-33b_1>	
ヒ	遠放 ヲ ヒ 鴈爲伴、 五 日暮不收 ヲ {ヒ}	烏啄瘡 誰家 々、且養古願終	<17:27b_5>	
ヒ	南隣愛酒伴 ヲ 経旬 々 糸出飲 ヲ {ヒ}	獨空牀 乙 稠花 卜 亂葉裏江浜	<18:6b_2>	
ヒ	江邊一樹垂垂發 ヲ {ヒ}	朝夕 々、催人自白頭 乙	<18:4b_3>	
ヒ	九州兵革、浩茫茫 ヲ {ヒ}	三歎聚散 五 臨重陽 々 々 当杯	<17:33b_4>	
ヒ	梁公 1 富 乙 貴於身疎 ヲ {ヒ}	号令、明白、 乙 乙 々、人安居	<17:32b_5-33a_1>	
ヒ	黃四娘家 々、花滿蹊 ヲ {ヒ}	千朵万朵壓枝低 乙 留連戲蝶	<18:7b_4>	
ヒ	當時墮塊、誤一蹶 ヲ {ヒ}	委棄 乙 非汝、能周防 見人慘	<17:27b_3>	
ヒ	腕促蹄高 ヲ 如踏鐵 ヲ {ヒ}	交河 々、幾蹴曾冰裂% 五色	<17:30a_4>	
ヒ	苑中駉牝三千匹 豊草青青 ヲ {ヒ}	寒不死 食之豪健、西域無 ヲ	<17:25b_1>	
ヒ	雄姿逸態、何峭峯 ヲ {ヒ}	顧影驕嘶 ヲ 自矜寵 隅目 1	<17:28a_5-28b_1>	
ヒ	幸不折來傷歲 ヲ {ヒ}	暮 若爲看去亂鄉愁 阿 江邊一	<18:4b_2>	
ヒ	当杯對客 ヲ 忍涕淚 ヲ {ヒ}	不覺老夫 矣 神内傷% ヒ 々	<17:33b_5-34a_1>	
ヒ	江湖凡馬、多顛顛 ヲ {ヒ}	衣冠、往往乘蹇驢 梁公 1 富	<17:32b_4>	
ヒ	矣馬癖 乙 人共知 ヲ ヒ	初得花驄 ヲ {ヒ}	大宛種 夙昔伝聞 五 思一見、	<17:28a_3>
ヒ	忍涕淚 ヲ ヒ	不覺老夫 矣 神内傷% {ヒ} 々	<17:33b_5-34a_1>	
ヒ	江浜 ヲ ヒ	行步 乙 欽危 ヒ 1 實怕春 {ヒ} 々、갈가/*한글도*/ 詩 卜 /*斗	<18:6b_3>	
ヒ	飛戰鬥塵 ヲ ヒ	濟世%宜引英俊人、 {ヒ} 々 黎元愁痛、會蘇息、 ヒ 夷	<19:21b_1>	
ヒ	旧入故園 ヲ 嘗識主 {ヒ}	如社日 々、遠看人 乙 /*중양	<17:16b_1>	
ヒ	宴筵 々、曾語蘇季子 {ヒ}	後來 亦、傑出雲孫比 茅齋 1	<19:22b_2>	
ヒ	夙昔伝聞 五 思一見、 {ヒ}	牽來 々、左右、神皆竦 雄姿	<17:28a_4>	
ヒ	嘉去 ヲ ヒ?	紅顔白面 々、花映肉、 {ヒ} 々 軍符 卜 侯印 乙 取豈遲 日 五	<19:21a_3>	
ヒ	不露文章 乙?世已驚 ヲ {ヒ}	未辭剪伐%誰能送 苦心豈	<18:13a_3>	
ヒ	江湖後搖落 ヲ {ヒ}	亦恐歲蹉跎 ヲ 々 々	<18:10a_8-10b_1>	
ヒ	吾聞良 1 驥老始成 ヲ {ヒ}	乙? 此馬、數年、 々 人更驚	<17:29a_3>	
ヒ	傾壺簫管 々 動白髮 ヲ {ヒ}	乙 舞劍 ヲ 霜雪、吹青春 宴	<19:22b_1>	
ヒ	花 卜 亂葉裏江浜 ヲ ヒ	行步 乙 欽危 {ヒ} 1 實怕春 ヒ 々、갈가/*한글도*	<18:6b_3>	
ヒ	落落出群 1 非樛柳 五 青青不朽 {ヒ}	1 豈楊梅 日 五 欲存老蓋千年	<18:22a_3>	

初刊本『杜詩諺解』の口訣研究

ヒ	緑竹ヒ1半含鐘	五	新梢{ヒ}1纔出牆乙	色侵書帙晚	五	<18:10b_4>						
ヒ			江上舍前{ヒ}1無此物ッヒ	幸分蒼翠ッフ		<18:11a_4>						
ヒ			緑竹{ヒ}1半含鐘	五	新梢ヒ1纔出	<18:10b_4>						
ヒ	望少城ッヒ花滿煙ッヒ		百花高樓{ヒ}1更可憐乙	誰能載酒開金盞		<18:7a_5>						
1			天下鼓角{1}何時休	陣前部曲1終日死	附	<19:23b_1>						
1			西京{1}安穩未阿	不見一人來乙	臘月	<18:5a_6>						
1	天下鼓角1何時休		陣前部曲{1}終日死	附書与裴五	因示蘇ッ	<19:23b_1>						
1			星宮之君{1}醉瓊漿	巨乙?	羽人稀少ッフ?	<19:18b_4-19a_1>						
1			落落出群{1}非樛柳	五	青青不朽ヒ1豈楊	<18:22a_3>						
1	俸錢1時散土子盡%		府庫{1}不爲驕豪虛	以茲又報主寸心		<17:33a_2>						
1			梁公{1}富乙貴於身疎ッヒ	号令	明	<17:32b_5-33a_1>						
1			雄姿{1}未受伏櫪恩	ヒ	猛氣1猶思戰	<17:30a_3>						
1			繁枝{1}容易紛紛落	五	嫩葉1商量	<18:8a_4>						
1			頭上銳耳{1}批秋竹	五	脚下高蹄1削寒	<17:31b_2>						
1			龍媒真種{1}在帝都ッヒ	子孫	未落西南	<17:32b_2>						
1			美人{1}胡爲隔秋水	五	焉得置之	イセ	<19:19b_3>					
1			鳥雀{1}苦肥秋粟菽	イセ	蛟龍1欲蟄	<19:23a_3>						
1			時俗{1}造	今	次那得致	雲霧晦冥方	<17:29b_1>					
1			黑鷹{1}不省人間有	ス小ヒ	度海ッフ	<17:12a_2>						
1	頭上銳耳1批秋竹	五	脚下高蹄{1}削寒玉	始知神龍1別有%	種	<17:31b_2>						
1			於身%色有用	五	与道{1}氣相和%	紅	ハ	乙?	/*竈耆ト*/	<18:3a_1>		
1			盈把{1}那須滄海珠	日五	入懷1本倚	<19:20b_3>						
1			丈人駿馬{1}名胡騶	ヒ	前年今	避胡過金	<17:31a_1>					
1			纍纍嶺阜{1}藏奔突	五	往往坡陁1縱超	<17:26a_3>						
1			隅目{1}青熒ッフ	來鏡懸	五	肉騶1	<17:28b_2>					
1	沙又如白水		繚以周牆乙又百余{1}里	乙	龍媒昔是渥洼種	ヒ	汗	<17:25a_5>				
1	侯		奉使	フ	光推擇ッヒ	滔滔才%略{1}滄溟窄	杜陵老翁	秋繫船	ッ	<17:33a_5-33b_1>		
1			周南留{1}滯古所惜	ヒ	南極老人	乙	応	<19:19b_2>				
1			始知神龍{1}別有%	種	ヒ	不比俗馬	矣	空多	<17:31b_3>			
1	鳥雀1苦肥秋粟菽	イセ	蛟龍{1}欲蟄寒沙水	天下鼓角1何時		<19:23a_3>						
1			吾聞良{1}驥老始成	ッヒ	ヒ?	此馬	數年	<17:29a_3>				
1	盈把1那須滄海珠	日五	入懷{1}本倚岷山玉	撥棄潭州百斛酒		<19:20b_3>						
1	雄姿1未受伏櫪恩	ヒ	猛氣{1}猶思戰場利	腕促蹄高	ッフ	如	<17:30a_3>					
1			茅齋{1}定王城郭門	五	藥物乙?	楚老	<19:22b_3>					
1	繁枝1容易紛紛落	五	嫩葉{1}商量細細開	乙		<18:8a_4>						
1	黎元愁痛		會蘇息	ヒ	夷狄跋扈{1}徒遶巡	授鉞	ッ	示	築壇	乙	聞意	<19:21b_2>
1			俸錢{1}時散土子盡%	府庫1不爲驕豪		<17:33a_2>						
1	纍纍嶺阜1藏奔突	五	往往坡陁{1}縱超越	角壯	翻同麋鹿遊	ッ	<17:26a_3>					
1	隅目1青熒	ッフ	來鏡懸	五	肉騶{1}礮礮	ッフ	連錢動	朝來	亦	少	<17:28b_2>	
1	ト亂	藁	襄江濱	ッヒ	行歩乙	欽危	ヒ{1}實怕春	ヒ	ハ	갈가	/*한글토*/	<18:6b_3>
1	落落出群1非樛柳	五	青青不朽	ヒ{1}豈楊梅	日五	欲存老蓋	千年意	<18:22a_3>				
1	緑竹ヒ1半含鐘	五	新梢	ヒ{1}纔出牆	乙	色侵書帙	晚	五	陰	<18:10b_4>		
1			江上舍前	ヒ{1}無此物	ッヒ	幸分蒼翠	ッフ	拂	<18:11a_4>			
1			緑竹	ヒ{1}半含鐘	五	新梢	ヒ1纔出牆	<18:10b_4>				
1	少城ッヒ花滿煙	ッヒ	百花高樓	ヒ{1}更可憐	乙	誰能載酒	開金盞	ッ	<18:7a_5>			
1	卿家旧物	乙	公能取	ッヒ	天廡	フ{1}眞龍	五	此其亞	晝洗	亦	須	<17:29a_1>
1	愛花	ッフ	即欲死	ハ	只恐花盡	老	ッヒ{1}相催	乙	繁枝1容易紛紛落	ハ	<18:8a_3>	
1			君不見%	タ	左輔白沙	又如白水	繚以周	<17:25a_4>				
1	知好顔色	又	ヒ	莫作委泥沙	乙	今	タ	タ	/*竈耆ト*/	<18:6a_3>		
1	마른	/*한글토*/	料理白頭人	ハ	今	タ	タ	タ	/*竈耆ト*/	江深	<18:6b_4-7a_1>	

刀	長々、安〇/*교정부호*/壯兒{刀}不敢騎ッヒ 走過掣電乙傾城	<17:30b_2>
刀	物、又々同精氣日五 雖未成龍今{刀}?亦有神	<17:26b_3>
ナ	走覓々、南隣愛酒伴ッフ 經句{ナ}衆出飲ッヒ 獨空牀乙 稠花ト	<18:6b_2>
矣	無數將軍{矣}西第成ッホ 早作丞相ッフ 東	<19:23a_2>
矣	安西都護{矣}胡青隴、聲價、欵然來向東	<17:29b_4>
矣	他日更僕ッフ 語不淺、ヒ 明公{矣}論兵、氣益振 傾壺簫管ム動	<19:22a_2>
矣	鄧公{矣}馬癖乙人共知ッヒ 初得花驄	<17:28a_3>
矣	詩ト/*조측도*/酒{矣}/*조측도*/尙堪驅使在、ヒ、	<18:6b_4-7a_1>
矣	始知神龍1別有%種、ヒ 不比俗馬{矣}空多肉 洛陽大道、時再清巨	<17:31b_3>
矣	杯對客ッフ 忍涕淚ッヒ 不覺老夫{矣}神內傷%ヒム	<17:33b_5-34a_1>
弋	豈知異物、又{弋}同精氣日五 雖未成龍今刀?亦	<17:26b_3>
弋	我不樂思岳陽ッヒ 身欲奮飛ノ{弋}?病在床 美人、娟娟隔秋ッヒ	<19:18a_1>
弋	自矜胡驕、奇絕代%{弋} 乘出々、千人万人愛 一聞說	<17:31a_3>
弋	美人1胡爲隔秋水五 焉得置之%{弋}貢玉堂五	<19:19b_3>
ム	虛名但蒙寒暄問ッヒ 泛愛{ム}不救溝壑辱 齒落、月未是無	<19:20a_2>
ム	傾壺簫管{ム}動白髮ッヒ 舞劍ッテ 霜雪	<19:22b_1>
ム	鵬碍九{ム}天須却避〇/*교정부호*/ 兎	<17:12a_1>
ム	避〇/*교정부호*/ 兎今乙 經三窟{ム}莫深憂乙 黑鷹1不省人間有	<17:12a_1>
ム	故園不可見{ム} 巫岫鬱嵯峨乙	<18:5a_4>
ム	不是愛花ッフ 卽欲死{ム} 只恐花盡老ッ? 相催乙 繁	<18:8a_3>
ム	時亦、對雪遙憶ッヒ 送客逢春{ム}可自由 幸不折來傷歲ッヒ	<18:4b_1>
ム	附書与裴五 因示蘇ッヒ 此生{ム}已愧須人扶 致君堯舜乙 付公	<19:23b_2>
ム	、自獵乙 知無敵ヒ 百中乙 又爭能{ム} 恥下韜乙 鵬碍九ム 天須却避	<17:11b_3>
ム	庭前々、甘菊移時晚 青藥{ム}重陽不堪摘 明日蕭條盡醉醒	<18:1a_3>
ム	湖後搖落ッヒ 亦恐歲蹉跎ッヒ 又{ム}	<18:10a_8-10b_1>
ム	忍涕淚ッヒ 不覺老夫矣 神內傷%ヒム	<17:33b_5-34a_1>
ム	淚ッヒ 行步乙 欵危ヒ 實怕春ヒ{ム}、갈가/*한글도*/ 詩ト/*조측	<18:6b_3>
ム	戰鬪塵ッヒ 濟世%宜引英俊人、ヒ{ム} 黎元愁痛、會蘇息、ヒ 夷狄	<19:21b_1>
ム	去ッヒ? 紅顏白面々、花映肉、尼{ム} 軍符ト 侯印乙 取豈遲 日五 紫	<19:21a_3>
ム	浩茫茫ッヒ 三歎聚散五 臨重陽%{ム} 当杯對客ッフ 忍涕淚ッヒ 不	<17:33b_4>
ム	年大又乃 与致溪邊々、十畝陰ッヒ{ム}	<18:22b_5>
ム	步履宜輕過 開筵得屢供ッヒ{ム} 看花乙 隨節序、五 不敢強爲	<18:9b_4>
ム	但令無翦伐ッヒ{ム} 會見拂雲長乙	<18:11a_1>
ム	此物ッヒ 幸分蒼翠ッフ 拂波濤ッヒ{ム}	<18:11a_4>
ム	等ッヒ 早據要路ッフ 思捐軀ッヒ{ム}	<19:23b_3>
ム	絆之巨乙 欲動、{ム}可轉欵側ッヒ 此豈有意仍騰	<17:27a_2>
ム	忽疑行%暮雨{ム}ヒ 何事又入朝霞五 恐是潘安	<18:6a_1>
ム	紅、{ム}乙?/*조측도*/取風霜實、五?	<18:3a_2>
ム	?/*조측도*/取風霜實、五? 青、{ム}乙?/*조측도*/看雨露柯乙?	<18:3a_2>
ム	한글도*/料理白頭人、々、?、{ム}ッフ/*조측도*/ 江深竹靜兩	<18:6b_4-7a_1>
糸	走覓々、南隣愛酒伴ッフ 經句{糸}衆出飲ッヒ 獨空牀乙 稠花ト亂	<18:6b_2>
々	深知好顔色、又ヒ 莫作委泥沙乙、{々}ヲ/*조측도*/	<18:6a_3>
々	異物、又々同精氣日五 雖未成龍今{々}刀?亦有神	<17:26b_3>
々	隨劉氏乙?定長安否? 帷幄乙未改{々}乙 神慘傷 國家成敗乙 吾豈敢	<19:19a_3>
々	々、只教心力破ッヒ 干人、何事{々}乙 網羅求五 一生々、自獵乙	<17:11b_2>
々	暫語船檣五?還起去ッフ 穿花落水{々}乙 益滿巾乙	<17:16b_3>
々	九ム 天須却避〇/*교정부호*/ 兎{々}乙 經三窟ム 莫深憂乙 黑鷹1	<17:12a_1>
々	鳥雀1 苦肥秋粟菽{々}乙 蛟龍1 欲蟄寒沙水 天下鼓	<19:23a_3>
々	赤汗、微生白雪毛ッヒ 銀鞍{々}、却覆香羅帕 卿家旧物乙 公	<17:28b_4>
々	江上人家桃樹枝、春寒巨乙 細雨{々}、出疎籬乙 影遭碧水潛勾引	<18:3a_5>

今	江深竹靜兩三家{今}、多事紅花映白花乙 報答春	<18:7a_2>
今	黃四娘家{今}、花滿蹊ッヒ 千朵万朵壓枝	<18:7b_4>
今	誰家{今}、且養古願終惠ッフ 更試明	<17:28a_1>
今	腕促蹄高ッフ如踏鐵ッヒ 交河{今}、幾蹴曾冰裂% 五色、散作雲	<17:30a_4>
今	臘月巴江曲{今}、山花、已自開乙 盈盈当雪	<18:5b_1>
今	滄江白髮愁看汝ッヌヒ 來歲如今{今}、歸未歸阿	<17:38b_4>
今	自矜胡驕、奇絶代 ^{コヤ} 乘出{今}、千人万人愛 一聞説盡急難	<17:31a_3>
今	晝洗亦、須騰涇渭深、 ^ユ 夕趨{今}、可刷幽并夜 吾聞良 ¹ 驥老	<17:29a_2>
今	一生{今}、自獵乙知無敵ヒ 百中乙ヌ	<17:11b_3>
今	草堂塹西{今}、無樹林ッヒ 非子ア誰復見	<18:22b_2>
今	庭前{今}、甘菊移時晚 青蘂 [△] 重陽不	<18:1a_3>
今	時俗 ¹ 造{今}、次那得致 雲霧晦冥方降精	<17:29b_1>
今	長{今}、安○/*교정부호*/壯兒カ不	<17:30b_2>
今	正翻搏風超紫塞ッヒ 玄冬{今}、?幾夜 [△] 、宿陽台 [△] 虞羅自	<17:12a_3>
今	黃師塔前江水東{今}、春光、嬾困ッフ倚微風乙	<18:7b_2>
今	市北肩輿 [△] 每聯袂ッロ 郭南{今}、抱甕亦隱几 無數將軍 [△] 西	<19:23a_1>
今	旧入故園ッフ嘗識主 ^尼 如社日{今}、遠看人乙/*중양토*/ 可憐	<17:16b_1>
今	丈人駿馬 ¹ 名胡驕 ^ヒ 前年{今}、避胡過金牛ッフ 廻鞭却走	<17:31a_1>
今	而今西北{今}、自反胡 騏驎蕩盡ッフ一疋	<17:32b_1>
今	憶子初尉永嘉去ッヒ? 紅顏白面{今}、花映肉、 ^ニ 軍符ト侯印	<19:21a_3>
今	翻搏風超紫塞ッヒ 玄冬 [△] 、?幾夜{今}、宿陽台 [△] 虞羅自各虛施巧	<17:12a_3>
今	巫山秋夜{今}、螢火飛ッヒ 簫疎 [△] 、巧入	<17:38b_1>
今	在野{今}、只教心力破ッヒ 千人、何	<17:11b_2>
今	江邊一樹垂垂發ッヒ 朝夕{今}、催人自白頭乙	<18:4b_3>
今	夙昔伝聞 [△] 思一見、 ^ニ 牽來{今}、左右、神皆竦 雄姿逸態、	<17:28a_4>
今	暫時花戴雪ッヒ 幾處{今}、葉沈波 [△] 体弱ッヒ春苗早	<18:10a_5>
今	可憐處處{今}、巢居室ッヒ 何異飄飄託此	<17:16b_2>
今	王有虎臣、司苑門ッヒ 入門天廡{今}、皆雲屯 驢驢一骨、獨当御	<17:25b_3>
今	宴筵{今}、曾語蘇季子 ^ニ 後來亦、傑	<19:22b_2>
今	走覓{今}、南隣愛酒伴ッフ 經句 [△] 衆	<18:6b_2>
今	巫山秋夜 [△] 、螢火飛ッヒ 簫疎{今}、巧入坐人衣乙 忽驚屋裏琴	<17:38b_1>
今	飽聞楫木、三年大 [△] 乃 与致溪邊{今}、十畝陰ッ△	<18:22b_5>
今	梔子%比衆木 人間{今}、?誠未多 於身%色有用、 [△]	<18:2b_5>
今	未須마론/*한글토*/料理白頭人、{今}、 [△] ?、 [△] ッフ/*좌측토*/	<18:6b_4-7a_1>
乙	無情移%/*좌측토*/得汝ヒ?、{乙}/*좌측토*/ 貴在映江波乙、乙	<18:3a_3>
乙	ヒ?、乙/*좌측토*/ 貴在映江波乙、{乙}/*좌측토*/	<18:3a_3>
乙	*尚堪驅使在、 [△] ヒ、 [△] 소/*한글토*/{乙} 未須마론/*한글토*/料理白	<18:6b_4-7a_1>
乙	螢火飛ッヒ 簫疎 [△] 、巧入坐人衣{乙} 忽驚屋裏琴書冷、 [△] 復亂簾	<17:38b_1>
乙	軍符ト侯印{乙}取豈遲 [△] 紫ト燕駮耳行甚	<19:21a_4>
乙	細葉帶浮毛 疎花披素艷{乙} 深栽小齋後ッヒ 庶使幽人%	<18:2a_1>
乙	看花{乙}隨節序、 [△] 不敢強爲容乙	<18:10a_1>
乙	紫萼扶千蘂 [△] 黃鬚照万花{乙} 忽疑行%暮雨 [△] ヒ 何事又入	<18:5b_5>
乙	竹靜兩三家 [△] 、多事紅花映白花{乙} 報答春光、知有處又ヒ 應須	<18:7a_2>
乙	臘月巴江曲 [△] 、山花、已自開{乙} 盈盈当雪杏、 [△] 豔豔待春梅	<18:5b_1>
乙	易紛紛落、 [△] 嫩蘂 ¹ 商量細細開{乙}	<18:8a_4>
乙	、知有處又ヒ 應須美酒又送生涯{乙} 東望少城ッヒ花滿煙ッヒ 百	<18:7a_4>
乙	逸群絶足、信殊傑ッヒ 個儻權奇{乙}難具論 纍纍嶺阜 ¹ 藏奔突、	<17:26a_2>
乙	當時歷塊、誤一蹶ッヒ 委棄{乙}非汝、能周防 見人慘澹若哀	<17:27b_3>
乙	琴書冷、 [△] 復亂簾前ッヒ星宿稀{乙} 却繞井欄ッフ添箇箇 [△] 偶經	<17:38b_2>
乙	ッ添箇箇 [△] 偶經花藥ッフ弄輝輝{乙} 滄江白髮愁看汝ッヌヒ 來歲	<17:38b_3>

乙	被花惱不徹、フ 無處告訴%只顛狂{乙} 走覓々、南隣愛酒伴、フ 經	<18:6a_5-6b_1>
乙	?還起去、フ 穿花落水々乙益霑巾{乙}	<17:16b_3>
乙	万里%寒空{乙} 祇一日ヒ 金眸玉%瓜、不凡材	<17:12b_2>
乙	簇開無主、ヒ 可愛深紅、愛淺紅{乙} 黃四娘家々、花滿蹊、ヒ 千	<18:7b_3>
乙	、ヒ 娟娟淨、五 風吹、ヒ 細細香{乙} 但令無剪伐、フ 會見拂雲長	<18:10b_6>
乙	藹他年到、ヒ 蘇竹、亭亭出縣高{乙} 江上舍前、ヒ 1無此物、ヒ 幸	<18:11a_3>
乙	深知好顔色、又ヒ 莫作委泥沙{乙}、今夕/*斗忒斗*/	<18:6a_3>
乙	フ即欲死、只恐花盡老、1?相催{乙} 繁枝、1容易紛紛落、五 嫩葉	<18:8a_3>
乙	空乙 祇一日ヒ 金眸玉%瓜、不凡材{乙} 催宗文樹雞柵	<17:12b_2>
乙	紛紛桃李枝{乙}? 處處總能移% 如何貴此%重	<18:2b_2>
乙	恐是潘安縣、又ヒ 堪留衛玠車{乙} 深知好顔色、又ヒ 莫作委泥	<18:6a_2>
乙	梅動詩興、ヒ 還如何遜、在揚州{乙} 此時亦、對雪遙相憶、ヒ 送	<18:4a_3>
乙	豆*/收葉舉、五 新掩、フ乙?捲牙重{乙} 步履宜輕過 開筵得屢供、フ	<18:9b_3>
乙	致君堯舜{乙}付公等、又ヒ? 早據要路、フ	<19:23b_3>
乙	百草、競春華、ヒ 麗春、乙 應最勝{乙} 少須好顔色、ヒ? 多漫枝條	<18:2a_5>
乙	爲客動經春、ヒ 燕子啼泥兩度新{乙} 旧入故園、フ 嘗識主、ヒ 如社	<17:16a_6>
乙	、フ 嘗識主、ヒ 如社日、々、遠看人{乙}/*중앙豆*/ 可憐處處、々、巢	<17:16b_1>
乙	弱、ヒ 春苗早、五 叢長、ヒ 夜露多{乙} 江湖後搖落、ヒ 亦恐歲蹉	<18:10a_6>
乙	梅藥臘前破、ヒ 梅花年後多{乙} 絶知春意早、又ヒ 最奈客愁何	<18:4b_5-5a_1>
乙	授鉞、フ 築壇{乙} 聞意旨、ヒ 顏綱ト?漏網乙 期	<19:21b_3>
乙	但令無剪伐、フ 會見拂雲長{乙}	<18:11a_1>
乙	々、花滿蹊、ヒ 千朵万朵壓枝低{乙} 留連戲蝶時時舞、五 自在嬌鶯	<18:7b_4>
乙	豈*/壯兒刀不敢騎、ヒ 走過掣電{乙} 傾城知 青糸、又 絡頭、フ 爲君	<17:30b_2>
乙	垂垂發、ヒ 朝夕、々、催人自白頭{乙}	<18:4b_3>
乙	洛陽大道、時再清、ヒ 累日{乙} 喜得俱東行 鳳臆龍鬢乙?未易	<17:31b_4>
乙	楚草經寒碧、ヒ 庭春入眼濃{乙} 旧低%/*斗忒斗*/收葉舉、五	<18:9b_2>
乙	汝ヒ?,乙/*斗忒斗*/ 貴在映江波{乙}、乙/*斗忒斗*/	<18:3a_3>
乙	雪樹元同色、ヒ 江風亦自波{乙} 故園不可見、々 巫岫鬱嵯峨、乙	<18:5a_3>
乙	國家成敗{乙}吾豈敢、ヒ 色難腥腐、五 餐楓	<19:19a_4-19b_1>
乙	盈盈当雪杏、五 豔豔待春梅{乙} 直苦風塵暗、ヒ 誰憂客鬢催	<18:5b_2>
乙	梁公、1富{乙} 貴於身疎、ヒ 号令、明白、	<17:32b_5-33a_1>
乙	水東、々、春光、嬾困、フ 倚微風{乙} 桃花一簇開無主、ヒ 可愛深	<18:7b_2>
乙	茅齋、1定王城郭門、五 藥物{乙}?楚老漁商市 市北肩輿、又 每聯	<19:22b_3>
乙	卿家旧物{乙}公能取、ヒ 天廡、1 眞龍、	<17:29a_1>
乙	鄧公、矣馬癖{乙}人共知、ヒ 初得花驄、ヒ 大	<17:28a_3>
乙	ホ 築壇乙 聞意旨、ヒ 顏綱ト?漏網{乙} 期弥綸 郭欽、上書、フ 見、	<19:21b_3>
乙	疇早、豈*/ 兔、々、乙 經三窟、々 莫深愛{乙} 黑鷹、1 不省人間有、又 小、ヒ 度	<17:12a_1>
乙	盡清秋、ヒ 不惜奇毛、フ 恣遠遊{乙} 在野、々、只教心力破、ヒ 干	<17:11b_1>
乙	看花乙 隨節序、五 不敢強爲容{乙}	<18:10a_1>
乙	如白水、繚以周墻乙、又 百余、1里{乙} 龍媒昔是渥洼種、ヒ 汗血今	<17:25a_5>
乙	色侵書帙晚、五 陰過酒罇涼{乙} 雨洗、ヒ 娟娟淨、五 風吹、	<18:10b_5>
乙	昨者赤松子、ヒ 恐是漢代韓張良{乙} 昔隨劉氏、ヒ?定長安古? 帷幄	<19:19a_2>
乙	花滿煙、ヒ 百花高樓、ヒ 1更可憐{乙} 誰能載酒開金盞、フ 喚取佳	<18:7a_5>
乙	間有、又 小、ヒ 度海、フ 疑從北極來{乙} 正翻搏風超紫塞、ヒ 玄冬、々	<17:12a_2>
乙	西京、1安穩未、阿 不見一人來{乙} 臘月巴江曲、々、山花、乙 已自	<18:5a_6>
乙	連戲蝶時時舞、五 自在嬌鶯恰啼、乙} 不是愛花、フ 即欲死、々 只恐	<18:8a_1>
乙	ヒ 1半含、五 新梢、ヒ 1纔出墻{乙} 色侵書帙晚、五 陰過酒罇涼	<18:10b_4>
乙	故園不可見、々 巫岫鬱嵯峨{乙}	<18:5a_4>
乙	昔隨劉氏、ヒ?定長安古? 帷幄{乙}未改、々 乙 神慘傷 國家成敗、乙	<19:19a_3>
乙	? 青、々、乙?/*斗忒斗*/看雨露柯{乙}? 無情移%/*斗忒斗*/得汝ヒ?	<18:3a_2>

乙	伴ッフ 経句ヲ衆出飲ッヒ 獨空牀{乙} 稠花ト亂藥裏江浜ッヒ 行歩	<18:6b_2>
乙	巧ッヒ 春鴈乙又同歸ッテ必見猜{乙} 万里%寒空乙 祇一日ヒ 金眸	<17:12a_4-12b_1>
乙	一生々\自獵{乙}知無敵ヒ 百中乙又爭能△恥	<17:11b_3>
乙	樹枝、春寒巨乙 細雨々\出疎籬{乙} 影遭碧水潛勾引又ヒ? 風妬	<18:3a_5>
乙	稠花ト亂藥裏江浜ッヒ 行歩{乙} 欵危ヒ 實怕春ヒ△,갈가/*	<18:6b_3>
乙	知無敵ヒ 百中乙又爭能△恥下韞{乙} 鵬碍九△天須却避○/*교정	<17:11b_3>
乙	鳳臆龍馨{乙}?未易識ヒ 側身注目ッヒ長風	<17:31b_5-32a_1>
乙	江上人家桃樹枝、春寒巨{乙}細雨々\出疎籬乙 影遭碧水	<18:3a_5>
乙	絆之巨{乙}欲動△可轉欵側ッヒ 此豈	<17:27a_2>
乙	星宮之君 1 醉瓊漿巨{乙}? 羽人稀少ッフ?不在傍 似聞	<19:18b_4-19a_1>
乙	洛陽大道、時再清巨{乙} 累日乙喜得俱東行 鳳臆龍馨	<17:31b_4>
乙	紅△△{乙}?/*차츰도*/取風霜實△五?	<18:3a_2>
乙	/*차츰도*/取風霜實△五? 靑△△{乙}?/*차츰도*/看雨露柯乙? 無	<18:3a_2>
乙	劉氏ヒ?定長安否? 帷幄乙未改△{乙}神慘傷 國家成敗乙吾豈敢曰	<19:19a_3>
乙	△只教心力破ッヒ 干人△何事△{乙}網羅求△ 一生々\自獵乙知	<17:11b_2>
乙	語船檣△?還起去ッフ 穿花落水△{乙}益霑巾乙	<17:16b_3>
乙	△天須却避○/*교정호호*/ 兎△△{乙}經三窟△莫深憂乙 黑鷹 1 不	<17:12a_1>
乙	鳥雀 1 苦肥秋粟菽△{乙} 蛟龍 1 欲飲寒沙水 天下鼓角	<19:23a_3>
乙	低%/*차츰도*/收葉舉△ 新掩ッフ{乙}?捲牙重乙 步履宜輕過 開筵	<18:9b_3>
乙	如何貴此△重 却怕有{乙}可/*차츰도*/人%知%	<18:2b_3>
乙	有四蹄△疾於鳥△日△ 不与八駿{乙}又俱△先鳴 時俗 1 造△△次	<17:29a_4>
乙	此馬△臨陣ッフ久無敵ッヒ 与人{乙}又一心ッフ成大功 功成惠養	<17:30a_1>
乙	一生々\自獵乙知無敵ヒ 百中{乙}又爭能△恥下韞乙 鵬碍九△	<17:11b_3>
乙	聞下詔ッフ喧都邑ッヒ 肯使麒麟{乙}又地上行	<17:29b_2>
乙	左輔白沙△如白水△ 繚△周墻{乙}又百余 1 里乙 龍媒昔是渥注	<17:25a_5>
乙	虞羅自各虛施巧ッヒ 春鴈{乙}又同歸ッテ必見猜乙 万里%寒	<17:12a_4-12b_1>
乙	群馬ッフ籍馬多ッヒ 氣在驅除△{乙}△△出金帛 劉侯△奉使△光	<17:33a_4>
乙	富乙貴於身踈ッヒ 号令△明白△{乙}△△人安居 俸錢 1 時散士子	<17:32b_5-33a_1>
乙	去歲奔波逐余寇△{乙}△△ 驂騮△不慣ッフ不得將	<17:27a_5-27b_1>
テ	久客△△多枉友朋書ッヒ 素書△一月	<19:20a_1>
テ	劉侯△奉使△△光推擇ッヒ 滔滔才略 1 滄溟	<17:33a_5-33b_1>
テ	草堂塹西△△無樹林ッヒ 非子△△誰復見幽心△ 飽聞樸木△三	<18:22b_2>
テ	明日蕭條盡醉醒△{テ} 殘花爛熳開何益△ 籬邊野外	<18:1a_4>
テ	1 驪老始成△ヒヒ? 此馬△數年△{テ}人更驚 豈有四蹄△疾於鳥△	<17:29a_3>
テ	向非戎事備征伐△{テ} 君肯辛苦越江湖△ 江湖凡馬	<17:32b_3>
テ	傾壺簫管△動白髮△ヒヒ 舞劍△△霜雪△吹青春 宴筵△△曾語	<19:22b_1>
テ	自各虛施巧ッヒ 春鴈乙又同歸△△必見猜乙 万里%寒空乙 祇一日	<17:12a_4-12b_1>
小	黑鷹 1 不省人間有△△{小}ヒ 度海ッフ疑從北極來乙 正	<17:12a_2>
小	馬ッフ籍馬多ッヒ 氣在驅除△乙△△△出金帛 劉侯△奉使△光推	<17:33a_4>
小	乙貴於身踈ッヒ 号令△明白△乙△△△人安居 俸錢 1 時散士子盡%	<17:32b_5-33a_1>
小	去歲奔波逐余寇△乙△△△ 驂騮△不慣ッフ不得將 士	<17:27a_5-27b_1>
阿	蕭條盡醉醒△△ 殘花爛熳開何益△△ 籬邊野外多衆芳 采擷細瑣升	<18:1a_4>
阿	戎事備征伐△△ 君肯辛苦越江湖△△ 江湖凡馬△多顛顛ッヒ 衣冠	<17:32b_3>
阿	折來傷歲△△暮 若爲看去亂鄉愁△△ 江邊一樹垂垂發ッヒ 朝夕△	<18:4b_2>
阿	西京 1 安穩未△△△ 不見一人來乙 臘月巴江曲△	<18:5a_6>
阿	雪遙相憶ッヒ 送客逢春△△自由△△ 幸不折來傷歲△△暮 若爲看	<18:4b_1>
阿	少須好顏色ッヒ? 多漫枝條剩△△ 紛紛桃李枝乙? 處處總能移%	<18:2b_1>
阿	看汝△△ヒ 來歲如今△△歸未歸△△	<17:38b_4>
テ	聖朝△△尙飛戰鬪塵ッヒ 濟世%宜引英	<19:21b_1>
テ	卿家旧物乙公能取ッヒ 天廡△△ 1 眞龍△△此其亞 晝洗△△	<17:29a_1>

- 欲存老蓋千年意ツ 爲覓霜根數寸栽ツスヒ <18:22a_4>
 旧入故園ツ 嘗識主ニ 如社日々 遠看人 <17:16b_1>
 不是愛花ツ 卽欲死ス 只恐花盡老ツ 1?相 <18:8a_3>
 黑鷹1 不省人間有ストヒ 度海ツ 疑從北極來乙 正翻搏風超紫 <17:12a_2>
 波逐余寇ツトヒ々 驕驕乙 不慣ツ 不得將ツ 士卒多騎內廐馬トヒ <17:27a_5-27b_1>
 当杯對客ツ 忍涕淚ツトヒ 不覺老夫ス 神內 <17:33b_5-34a_1>
 名胡騶トヒ 前年々 避胡過金牛ツ 廻鞭却走ツ 見天子トヒ? <17:31a_1>
 暫語船檣ス? 還起去ツ 穿花落水々トヒ益霑巾乙 <17:16b_3>
 聞道南行ツ 市駿馬トヒ 不限疋數ツ 軍 <17:32a_3>
 腕促蹄高ツ 如踏鐵トヒ 交河々 幾蹴曾 <17:30a_4>
 師塔前江水東々 春光乙 嬾困ツ 倚微風乙 桃花乙 簇開無主ツ <18:7b_2>
 立ツ 煩兒孫ツ 古 令我ス 又夜% 坐ツ 費灯燭 憶子初尉永嘉去トヒ? <19:21a_2>
 郭欽トヒ 上書ツ 見현/*한글도*/大計ツ 古 劉 <19:22a_1>
 宮之君1 瓊瓊漿トヒ? 羽人稀少ツ? 不在傍 似聞昨者赤松子トヒ <19:18b_4-19a_1>
 幕府トヒ 天下異トヒ 主將トヒ 儉省ツ 憂艱虞 祗收壯健勝鐵甲トヒ? <17:32a_4>
 한글도/大計ツ 古 劉毅トヒ 答詔ツ 驚群臣 他日更僕ツ 語不淺 <19:22a_1>
 近聞下詔ツ 喧都邑トヒ 肯使麒麟乙 又地 <17:29b_2>
 久無敵トヒ 与人トヒ 又一心ツ 成大功 功成惠養ツ 隨所致 <17:30a_1>
 角壯トヒ 翻同麋鹿遊トヒ 浮深ツ 簸蕩鼉鼉窟 泉出巨魚長比人 <17:26b_1>
 此馬トヒ 臨陣ツ 久無敵トヒ 与人トヒ 又一心ツ <17:30a_1>
 舍前トヒ 無此物トヒ 幸分蒼翠ツ 拂波濤トヒ <18:11a_4>
 數將軍ス 西第成トヒ 早作丞相ツ 東山起 鳥雀1 肥秋粟菽々 <19:23a_2>
 廻鞭却走ツ 見天子トヒ? 朝飲漢水ス 暮靈 <17:31a_2>
 道州手札トヒ 適復至トヒ 紙長ツ 要自三過讀 盈把1 那須滄海 <19:20b_2>
 江上被花惱不徹ツ 無處告訴% 只顛狂乙 走覓々 <18:6a_5-6b_1>
 青糸ス 絡頭ツ 爲君老トヒ 何由ス 却出橫門道 <17:30b_3>
 羅網群馬ツ 籍馬多トヒ 氣在驅除トヒトヒ <17:33a_4>
 走覓々 南隣愛酒伴ツ 經旬ス 出飲トヒ 獨空牀乙 <18:6b_2>
 他日更僕ツ 語不淺トヒ 明公ス 論兵トヒ 氣 <19:22a_2>
 玉立ツ 盡清秋トヒ 不惜奇毛ツ 恣遠遊乙 在野々 只教心力 <17:11b_1>
 功成惠養ツ 隨所致トヒ 飄飄遠自流沙至 <17:30a_2>
 却繞井欄ツ 添箇箇ス 偶經花葉ツ 弄輝輝 <17:38b_3>
 使我ス 又畫立ツ 煩兒孫ツ 古 令我ス 又夜% 坐ツ <19:21a_2>
 雲飛玉立ツ 盡清秋トヒ 不惜奇毛ツ 恣 <17:11b_1>
 堯舜乙 付公等ツスヒ? 早據要路ツ 思捐軀トヒ <19:23b_3>
 瘦馬トヒ 使我傷トヒ 骨骼トヒ 碑兀ツ 如堵墻 絆之トヒ 欲動トヒトヒ可 <17:26b_5-27a_1>
 姿逸態トヒ 何嵒峯トヒ 顧影驕嘶ツ 自矜寵 隅目1 青熒ツ 來鏡 <17:28a_5-28b_1>
 誰家々 且養ス 願終惠ツ 更試明年春草長 <17:28a_1>
 南行ツ 市駿馬トヒ 不限疋數ツ 軍中須 襄陽幕府トヒ 天下異トヒ <17:32a_3>
 誰能載酒開金盞ツ 喚取佳人舞繡筵ス 黃師塔前 <18:7b_1>
 而今西北々 自反胡 騏驎蕩盡ツ 一疋無 龍媒眞種1 在帝都トヒ <17:32b_1>
 繞井欄ツ 添箇箇ス 偶經花葉ツ 弄輝輝 滄江白髮愁看汝トヒ <17:38b_3>
 祗收壯健勝鐵甲トヒ? 豈因格鬪ツ 求龍駒 而今西北々 自反胡 <17:32a_5>
 隅目1 青熒ツ 來鏡懸トヒトヒ 肉驥1 硯礪ツ <17:28b_2>
 熒ツ 來鏡懸トヒトヒ 肉驥1 硯礪ツ 連錢動 朝來トヒ 少試華軒下 <17:28b_2>
 豆*/料理白頭人トヒトヒ?トヒ、トヒツ/*과즉도*/ 江深竹靜兩三家 <18:6b_4-7a_1>
 旧低%/*과즉도*/收葉學ス 新掩ツトヒ? 捲牙重乙 步履宜輕過 開 <18:9b_3>
 至尊內外トヒトヒ、馬盈億 伏櫪在空厓大存 逸 <17:26a_1>
 此時トヒトヒ、對雪遙相憶トヒ 送客逢春 <18:4b_1>
 驢驕一骨トヒ 獨當御トヒ 春秋二時トヒトヒ、歸至尊 至尊內外トヒトヒ、馬盈 <17:25b_4>

初刊本『杜詩諺解』の口訣研究

亦	畫洗{亦}、須騰涇渭深、五 夕趨、	<17:29a_2>
亦	五色、散作雲滿身、ヒ 万里{亦}、方看汗流血 長、安○/*	<17:30a_5-30b_1>
亦	朝來{亦}、少試華軒下、ヒ 未覺千金	<17:28b_3>
亦	宴筵、曾語蘇季子、尼 後來{亦}、傑出雲孫比 茅齋 1 定王城	<19:22b_2>
五	絕知春意早、ヒ 最奈客愁何{五} 雪樹元同色、ヒ 江風亦自波、	<18:5a_2>
五	却繞井欄、ソフ添箇箇{五} 偶經花葉、ソフ弄輝輝、	<17:38b_3>
五	忽疑行%暮雨、ヒ 何事、又入朝霞{五} 恐是潘安縣、ヒ 堪留衛玠	<18:6a_1>
五	力破、ソヒ 千人、何事、ヒ 網羅求{五} 一生、自獵、ヒ 知無敵、	<17:11b_2>
五	桃花一簇開無主、ソヒ 可愛深紅、	<18:7b_3>
五	黃四娘家、ヒ 花滿 直苦風塵暗、ソヒ 誰憂客鬢催{五}	<18:5b_3>
五	九州兵革、浩茫茫、ソヒ 三歎聚散{五} 臨重陽、	<17:33b_4>
五	當杯對客、ソフ忍 以茲、又報主寸心、	<17:33a_3>
五	赤、ソヒ 氣却西戎{五}?廻北狄 羅網群馬、ソフ籍馬多	<18:22b_2>
五	、無樹林、ソヒ 非子、誰復見幽心{五} 飽聞櫓木、	<18:22b_2>
五	三年大、又、乃 与致 鞭却走、ソフ見天子、ヒ?	<17:31a_2>
五	朝飲漢水{五} 暮靈州 自矜胡驢、	<17:31a_2>
五	奇絶代、 美人 1 胡爲隔秋水{五} 焉得置之、	<19:19b_3>
五	ヒ 貢玉堂 五 体弱、ソヒ 春苗早{五} 叢長、	<18:10a_6>
五	ソヒ 夜露多、	<18:10a_6>
五	江湖後搖 塞、ソヒ 玄冬、	<17:12a_3>
五	ソヒ 幾夜、	<17:12a_3>
五	宿陽台{五} 虞羅自各虛施巧、ソヒ 春鴈、	<17:12a_3>
五	美人、娟娟隔秋、ソヒ 水 濯足洞庭{五} 望八荒 鴻飛冥冥、	<19:18a_2>
五	五 日月白 青 爲隔秋水、	<19:19b_3>
五	焉得置之、	<19:19b_3>
五	ヒ 貢玉堂{五} ソフ爲君老、	<17:30b_3>
五	ヒ 何由、又却出橫門道{五} 暫時花戴雪、	<18:10a_5>
五	ソヒ 幾處、	<18:10a_5>
五	葉沈波{五} 体弱、ソヒ 春苗早、	<18:10a_5>
五	叢長、ソヒ 泉出巨魚長、	<17:26b_2>
五	比人、ソヒ 丹砂、又作尾{五}?黃金鱗 豈知異物、	<17:26b_2>
五	又、ヒ 同精 國家成敗、	<19:19a_4-19b_1>
五	ヒ 吾豈敢、	<19:19a_4-19b_1>
五	日 色難腥腐{五} 餐楓香 周南留 1 滯古所惜、	<19:19a_4-19b_1>
五	留連戲蝶時時舞{五} 自在嬌鶯恰恰啼、	<18:8a_1>
五	不是愛花 夙昔佗聞{五} 思一見、	<17:28a_4>
五	尼 牽來、	<17:28a_4>
五	左右、 鴻飛冥冥{五} 日月白 青楓、	<19:18a_3-18b_1>
五	葉赤、	<19:18a_3-18b_1>
五	古天雨霜 落落出群、	<18:22a_3>
五	1 非樛柳{五} 青青不朽、	<18:22a_3>
五	ヒ 1 豈楊梅、	<18:22a_3>
五	日 欲 旧低%/* <small>斗</small> 斗*/收葉舉{五} 新掩、	<18:9b_3>
五	ソフヒ 捲牙重、	<18:9b_3>
五	步履 暫語船檣{五}?還起去、	<17:16b_3>
五	ソフ 穿花落水、	<17:16b_3>
五	ヒ 益 紫萸扶千葉{五} 黃鬢照万花、	<18:5b_5>
五	忽疑行%暮雨 附書与妻{五} 因示蘇、	<19:23b_2>
五	ソヒ 此生、	<19:23b_2>
五	ヒ 已愧須人 強梳白髮{五}?提胡盧、	<17:33b_3>
五	ソロ 手兼菊花路傍摘 疾於鳥、	<17:29a_4>
五	日 五 不与八駿、	<17:29a_4>
五	ヒ 又俱{五} 先鳴 時俗 1 造、	<17:29a_4>
五	次那得致 國家成敗、	<19:19a_4-19b_1>
五	ヒ 吾豈敢、	<19:19a_4-19b_1>
五	日 色難腥腐、	<19:19a_4-19b_1>
五	餐楓香 周南留 1 盈把、	<19:20b_3>
五	1 那須滄海珠、	<19:20b_3>
五	日 五 入懷、	<19:20b_3>
五	1 本倚崑山玉 撥棄潭州 非樛柳、	<18:22a_3>
五	五 青青不朽、	<18:22a_3>
五	ヒ 1 豈楊梅、	<18:22a_3>
五	日 欲 豈知異物、	<17:26b_3>
五	又、	<17:26b_3>
五	ヒ 同精氣、	<17:26b_3>
五	日 五 雖未成龍、	<17:26b_3>
五	ヒ 亦、	<17:26b_3>
五	有神 軍符、	<19:21a_4>
五	ト 侯印、	<19:21a_4>
五	ヒ 取豈遲、	<19:21a_4>
五	日 五 紫、	<19:21a_4>
五	ト 燕駮耳行甚速 聖朝、	<19:21a_4>
五	尙 豈有四蹄、	<17:29a_4>
五	疾於鳥、	<17:29a_4>
五	日 五 不与八駿、	<17:29a_4>
五	ヒ 又俱、	<17:29a_4>
五	五 先鳴 時俗 1 盈盈、	<18:5b_2>
五	當雪杏、	<18:5b_2>
五	、	<18:5b_2>
五	五 豔豔待春梅、	<18:5b_2>
五	直苦風塵暗、 芙蓉旌旗、	<19:18b_3>
五	、	<19:18b_3>
五	五 煙霧樂 影動倒景搖瀟湘 星宮 隅目、	<17:28b_2>
五	1 青葵、	<17:28b_2>
五	ソフ 來鏡懸、	<17:28b_2>
五	、	<17:28b_2>
五	五 肉驥 1 礮礮、	<17:28b_2>
五	ソフ 連錢動 朝來 看花、	<18:10a_1>
五	ヒ 隨節序、	<18:10a_1>
五	、	<18:10a_1>
五	五 不敢強爲容、 畫洗、	<17:29a_2>
五	亦、	<17:29a_2>
五	須騰涇渭深、	<17:29a_2>
五	、	<17:29a_2>
五	五 夕趨、	<17:29a_2>
五	可刷幽并夜 吾聞良 頭上銳耳、	<17:31b_2>
五	1 批秋竹、	<17:31b_2>
五	、	<17:31b_2>
五	五 脚下高蹄 1 削寒玉 始知神龍 纍纍、	<17:26a_3>
五	福阜 1 藏奔突、	<17:26a_3>
五	、	<17:26a_3>
五	五 往往坡陁 1 縱超越 角壯、	<17:27b_5>
五	翻 天寒遠放、	<17:27b_5>
五	ヒ 鴈爲伴、	<17:27b_5>
五	、	<17:27b_5>
五	五 日暮不收、	<18:10b_5>
五	ヒ 烏啄瘡 誰家、	<18:10b_5>
五	、	<18:10b_5>
五	五 色侵書帙晚、	<18:10b_5>
五	、	<18:10b_5>
五	五 陰過酒罇涼、	<18:10b_5>
五	乙 雨洗、	<18:10b_5>
五	ソヒ 娟娟 茅齋、	<19:22b_3>
五	1 定王城郭門、	<19:22b_3>
五	、	<19:22b_3>
五	五 藥物、	<19:22b_3>
五	ヒ? 楚老漁商市 市北肩 於身、	<18:3a_1>
五	色有用、	<18:3a_1>
五	、	<18:3a_1>
五	五 与道、	<18:3a_1>
五	1 氣相和、	<18:3a_1>
五	紅、	<18:3a_1>
五	、	<18:3a_1>
五	ヒ?/*	<18:3a_1>

五	繁枝 1 容易紛紛落 〔五〕 嫩藥 1 商量細細開 乙	<18:8a_4>
五	物乙公能取 ヲヒ 天廐 1 眞龍 〔五〕 此其亞 晝洗 亦 須騰涇渭深	<17:29a_1>
五	忽驚屋裏琴書冷 〔五〕 復亂簷前 ヲヒ 星宿稀 乙 却鏡	<17:38b_2>
五	紅 〔五〕 乙?/*斗彗斗*/取風霜實 〔五〕? 青 〔五〕 乙?/*斗彗斗*/看雨	<18:3a_2>
五	雨洗 ヲヒ 娟娟淨 〔五〕 風吹 ヲヒ 細細香 乙 但令無翦	<18:10b_6>
五	綠竹 乙 1 半含籜 〔五〕 新梢 乙 1 纔出墻 乙 色侵書帙	<18:10b_4>
〔五〕	伝聞 五 思一見 〔五〕 尼 牽來 〔五〕 左右 〔五〕 神皆竦 雄姿逸態 〔五〕 何嵒峯 ヲ	<17:28a_4>
〔五〕	万里 〔五〕 寒空 乙 祗一日 乙 金眸玉 〔五〕 瓜 〔五〕 不凡材 乙 催宗文樹雞欄	<17:12b_2>
〔五〕	杜陵老翁 〔五〕 秋繫船 ヲヒ? 扶病相識長沙驛	<17:33b_2>
〔五〕	安西都護 〔五〕 胡青驄 〔五〕 聲 〔五〕 偈 〔五〕 欸然來向東 此馬 〔五〕 臨陣 ヲヒ	<17:29b_4>
〔五〕	臘月巴江曲 〔五〕 山花 〔五〕 已自開 乙 盈盈當雪杏 〔五〕 豔	<18:5b_1>
〔五〕	當時歷塊 〔五〕 誤一蹶 ヲヒ 委棄 乙 非汝 〔五〕 能	<17:27b_3>
〔五〕	九州兵革 〔五〕 浩茫茫 ヲヒ 三歎聚散 〔五〕 臨重	<17:33b_4>
〔五〕	江湖凡馬 〔五〕 多顛顛 ヲヒ 衣冠 〔五〕 往往乘蹇驢 梁公 1 富 乙 貴於	<17:32b_4>
〔五〕	赤汗 〔五〕 微生白雪毛 ヲヒ 銀鞍 〔五〕 却	<17:28b_4>
〔五〕	〔五〕 見 현/*한글도*/大計 ヲヒ 劉毅 〔五〕 答詔 ヲヒ 驚群臣 他日更僕 ヲ	<19:22a_1>
〔五〕	郭欽 〔五〕 上書 ヲヒ 見 현/*한글도*/大計	<19:22a_1>
〔五〕	來 亦 〔五〕 少試華軒下 ヲヒ 未覺千金 〔五〕 滿高価 赤汗 〔五〕 微生白雪毛 ヲ	<17:28b_3>
〔五〕	食之豪健 〔五〕 西域無 ヲヒ 每歲攻駒 〔五〕 冠邊鄙 王有虎臣 〔五〕 司苑門 ヲ	<17:25b_2>
〔五〕	看六印 ヲヒ 帶官字 ヲヒ 衆道三軍 〔五〕 遺路傍 皮乾剝落雜泥滓 ヲヒ?	<17:27a_3>
〔五〕	食之豪健 〔五〕 西域無 ヲヒ 每歲攻駒 〔五〕 冠邊	<17:25b_2>
〔五〕	華軒 〔五〕 藹藹他年到 ヲヒ 絲竹 〔五〕 亭亭	<18:11a_3>
〔五〕	劉侯 〔五〕 奉使 〔五〕 光推擇 ヲヒ 滔滔才略	<17:33a_5-33b_1>
〔五〕	黃師塔前江水東 〔五〕 春光 〔五〕 嬾困 ヲヒ 倚微風 乙 桃花一簇	<18:7b_2>
〔五〕	報答春光 〔五〕 知有處 〔五〕 又 乙 應須美酒 〔五〕 又 送生	<18:7a_4>
〔五〕	驢驕一骨 〔五〕 獨當御 ヲヒ 春秋二時 〔五〕 亦 〔五〕 歸	<17:25b_4>
〔五〕	念茲空長大枝葉 〔五〕 又 乙? 結根 〔五〕 失所 〔五〕 纏風霜	<18:1b_2>
〔五〕	道州手札 〔五〕 適復至 ヲヒ 紙長 ヲヒ 要自三	<19:20b_2>
〔五〕	江上人家桃樹枝 〔五〕 春寒 〔五〕 巨 乙 細雨 〔五〕 出疎籬 乙	<18:3a_5>
〔五〕	百草 〔五〕 競春華 ヲヒ 麗春 〔五〕 應最勝 乙 少須好顏色 ヲヒ?	<18:2a_5>
〔五〕	久客 〔五〕 多枉友朋書 ヲヒ 素書 〔五〕 一月凡一束 虛名但蒙寒暄問	<19:20a_1>
〔五〕	五色 〔五〕 散作雲滿身 ヲヒ 万里 〔五〕 亦 〔五〕 方	<17:30a_5-30b_1>
〔五〕	王有虎臣 〔五〕 司苑門 ヲヒ 入門天廐 〔五〕 皆	<17:25b_3>
〔五〕	在野 〔五〕 只教心力破 ヲヒ 干人 〔五〕 何事 〔五〕 乙 網羅求 〔五〕 一生 〔五〕 〔五〕	<17:11b_2>
〔五〕	周南留 1 滯古所惜 〔五〕 乙 南極老人 〔五〕 應壽昌 美人 1 胡爲隔秋水 〔五〕	<19:19b_2>
〔五〕	美人 〔五〕 娟娟隔秋 ヲヒ 水 濯足洞庭 〔五〕	<19:18a_2>
〔五〕	左輔白沙 〔五〕 又 如白水 〔五〕 縑以周墻 乙 又 百余 1 里 乙 龍	<17:25a_5>
〔五〕	管 〔五〕 動白髮 ヲヒ 乙 舞劍 ヲヒ 霜雪 〔五〕 吹青春 宴筵 〔五〕 曾語蘇季子	<19:22b_1>
〔五〕	百草 〔五〕 競春華 ヲヒ 麗春 〔五〕 應最勝 乙	<18:2a_5>
〔五〕	逸群絕足 〔五〕 信殊傑 ヲヒ 倜儻權奇 乙 難具	<17:26a_2>
〔五〕	龍媒眞種 1 在帝都 ヲヒ 子孫 〔五〕 未落西南隅 向非戎事備征伐	<17:32b_2>
〔五〕	東閣官梅動詩興 ヲヒ 還如何遜 〔五〕 在楊州 乙 此時 〔五〕 亦 〔五〕 對雪遙相	<18:4a_3>
〔五〕	雄姿逸態 〔五〕 何嵒峯 ヲヒ 顧影驕嘶 ヲヒ 自	<17:28a_5-28b_1>
〔五〕	華軒 〔五〕 藹藹他年到 ヲヒ 絲竹 〔五〕 亭亭出縣高 乙 江上舍前 乙 1	<18:11a_3>
〔五〕	黎元愁痛 〔五〕 會蘇息 〔五〕 乙 夷狄跋扈 1 徒遶	<19:21b_2>
〔五〕	豈有四蹄 〔五〕 疾於鳥 〔五〕 曰 〔五〕 不與八駿 乙 又	<17:29a_4>
〔五〕	洛陽大道 〔五〕 時再清 〔五〕 巨 乙 累日 乙 喜得俱東	<17:31b_4>
〔五〕	時歷塊 〔五〕 誤一蹶 ヲヒ 委棄 乙 非汝 〔五〕 能周防 見人慘澹若哀訴 失主	<17:27b_3>
〔五〕	此馬 〔五〕 臨陣 ヲヒ 久無敵 ヲヒ 與人 乙	<17:30a_1>
〔五〕	吾聞良 1 驥老始成 ヲヒ 乙? 此馬 〔五〕 數年 〔五〕 〔五〕 人更驚 豈有四蹄 〔五〕	<17:29a_3>

初刊本『杜詩諺解』の口訣研究

ゝ	江湖凡馬{ }多顛顛ッヒ 衣冠\ 往往乘蹇	<17:32b_4>
ゝ	東郊瘦馬{ }使我傷ッヒ 骨骼\ 硨兀ッフ	<17:26b_5-27a_1>
ゝ	襄陽幕府{ }天下異ッヒ 主將\ 儉省ッフ	<17:32a_4>
ゝ	鴻飛冥冥 五日月白 青楓{ }葉赤キ 天雨霜 玉京群帝集北	<19:18a_3-18b_1>
ゝ	更僕ッフ語不淺\ ヒ 明公矣論兵{ }氣益振 傾壺簫管△動白髮ッ	<19:22a_2>
ゝ	飽聞糧木{ }三年大ヌヲ 与致溪邊々\ 十	<18:22b_5>
ゝ	梁公 一富乙 貴於身跡ッヒ 号令{ }明白\ 乙キ\ 人安居 俸錢 一	<17:32b_5-33a_1>
ゝ	角壯{ }翻同麋鹿遊ッヒ 浮深ッフ簸	<17:26b_1>
ゝ	襄陽幕府\ 天下異ッヒ 主將{ }儉省ッフ憂艱虞 祗收壯健勝	<17:32a_4>
ゝ	東郊瘦馬\ 使我傷ッヒ 骨骼{ }硨兀ッフ如堵墻 絆之 巨乙欲	<17:26b_5-27a_1>
ゝ	自矜胡騶{ }奇絶代 五ヤ 乘出々\ 千人万	<17:31a_3>
ゝ	去歲奔波逐余寇ッヒ 乙キ\ 驂騶{ }不慣ッフ不得將 士卒多騎内	<17:27a_5-27b_1>
ゝ	安西都護 矣 胡青驄{ }聲価\ 欵然來向東 此馬\ 臨	<17:29b_4>
ゝ	赤汗\ 微生白雪毛ッヒ 銀鞍々{ }却覆香羅帕 卿家旧物乙 公能	<17:28b_4>
ゝ	上人家桃樹枝\ 春寒 巨乙 細雨々{ }出疎籬 乙 影遭碧水潛勾引ヌ	<18:3a_5>
ゝ	江深竹靜兩三家々{ }多事紅花映白花 乙 報答春光	<18:7a_2>
ゝ	誰家々{ }且養キ 願終惠ッフ 更試明年	<17:28a_1>
ゝ	黃四娘家々{ }花滿蹊ッヒ 千朵万朵壓枝低	<18:7b_4>
ゝ	腕促蹄高ッフ如踏鐵ッヒ 交河々{ }幾蹴曾冰裂% 五色\ 散作雲滿	<17:30a_4>
ゝ	臘月巴江曲々{ }山花\ 已自開 乙 盈盈当雪杏	<18:5b_1>
ゝ	江白髮愁看汝ッヌヒ 來歲如今々{ }歸未歸 阿	<17:38b_4>
ゝ	自矜胡騶\ 奇絶代 五ヤ 乘出々{ }千人万人愛 一聞說盡急難材	<17:31a_3>
ゝ	晝洗亦\ 須騰涇渭深\ 五 夕趨々{ }可刷幽并夜 吾聞良 一驥老始	<17:29a_2>
ゝ	一生々{ }自獵乙 知無敵 乙 百中乙ヌ争	<17:11b_3>
ゝ	草堂塹西々{ }無樹林ッヒ 非子テ 誰复見幽	<18:22b_2>
ゝ	庭前々{ }甘菊移時晚 青蘂△重陽不堪	<18:1a_3>
ゝ	時俗 一造々{ }次那得致 雲霧晦冥方降精 近	<17:29b_1>
ゝ	長々{ }安○/*교정부호*/壯兒 刀不敢	<17:30b_2>
ゝ	正翻搏風超紫塞ッヒ 玄冬々{ }?幾夜々\ 宿陽台 五 虞羅自各	<17:12a_3>
ゝ	黃師塔前江水東々{ }春光\ 嬾困ッフ倚微風 乙 桃	<18:7b_2>
ゝ	市北肩輿△每聯袂ッロ 郭南々{ }抱甕%亦隱几 無數將軍矣 西第	<19:23a_1>
ゝ	旧入故園ッフ嘗識主 尼 如社日々{ }遠看人 乙/*중양도*/ 可憐處	<17:16b_1>
ゝ	丈人駿馬 一 名胡騶 乙 前年々{ }避胡過金牛ッフ 廻鞭却走ッ	<17:31a_1>
ゝ	而今西北々{ }自反胡 騏驎蕩盡ッフ一疋無	<17:32b_1>
ゝ	憶子初尉永嘉去ッヒ? 紅顏白面々{ }花映肉\ 尼△ 軍符ト 侯印乙	<19:21a_3>
ゝ	搏風超紫塞ッヒ 玄冬々{ }?幾夜々{ }宿陽台 五 虞羅自各 虛施巧ッ	<17:12a_3>
ゝ	巫山秋夜々{ }螢火飛ッヒ 簫疎々\ 巧入坐	<17:38b_1>
ゝ	在野々{ }只教心力破ッヒ 千人\ 何事	<17:11b_2>
ゝ	江邊一樹垂垂發ッヒ 朝夕々{ }催人自白頭 乙	<18:4b_3>
ゝ	夙昔伝聞 五 思一見 乙 尼 牽來々{ }左右\ 神皆竦 雄姿逸態\ 何	<17:28a_4>
ゝ	暫時花戴雪ッヒ 幾處々{ }葉沈波 五 体弱ッヒ 春苗早 五	<18:10a_5>
ゝ	可憐處處々{ }巢居室ッヒ 何異飄飄託此身	<17:16b_2>
ゝ	有虎臣\ 司苑門ッヒ 入門天廡々{ }皆雲屯 驢驢一骨\ 獨当御ッ	<17:25b_3>
ゝ	宴筵々{ }曾語蘇季子 尼 後來亦\ 傑出	<19:22b_2>
ゝ	走覓々{ }南隣愛酒伴ッフ 経句 五 案出	<18:6b_2>
ゝ	巫山秋夜々\ 螢火飛ッヒ 簫疎々{ }巧入坐 人衣 乙 忽驚屋裏琴書	<17:38b_1>
ゝ	聞糧木\ 三年大ヌヲ 与致溪邊々{ }十畝陰ッ△	<18:22b_5>
ゝ	梔子%比衆木 人間々{ }?誠未多 於身%色有用\ 五 与	<18:2b_5>
ゝ	ッフ籊馬多ッヒ 氣在驅除\ 乙キ{ }出金帛 劉侯\ 奉使テ 光推擇	<17:33a_4>
ゝ	貴於身跡ッヒ 号令\ 明白\ 乙キ{ }人安居 俸錢 一 時散士子盡%	<17:32b_5-33a_1>

去歲奔波逐余寇 <small>乙</small> ト <small>ト</small> 馳驅、不慣、不得將 士卒	<17:27a_5-27b_1>
至尊内外 <small>亦</small> {ト}馬盈億 伏櫪在空堀大存 逸群	<17:26a_1>
此時 <small>亦</small> {ト}對雪遙相憶、ト 送客逢春 <small>ト</small>	<18:4b_1>
驕一骨、獨当御、ト 春秋二時 <small>亦</small> {ト}歸至尊 至尊内外 <small>亦</small> ト馬盈億	<17:25b_4>
畫洗 <small>亦</small> {ト}須騰涇渭深、ト 夕趨、ト可	<17:29a_2>
五色、散作雲滿身、ト 万里 <small>亦</small> {ト}方看汗流血 長、ト安 <small>○</small> ト <small>ト</small> ト	<17:30a_5-30b_1>
朝來 <small>亦</small> {ト}少試華軒下、ト 未覺千金、	<17:28b_3>
宴筵、ト會語蘇季子 <small>ト</small> 後來 <small>亦</small> {ト}傑出雲孫比 茅齋 <small>ト</small> 定王城郭	<19:22b_2>
豈有四蹄、疾於鳥、ト <small>ト</small> ト 不与八駿乙又俱 <small>ト</small> 先鳴	<17:29a_4>
齒落、ト 未是無心人、ト又ト? 舌存、ト	<19:20b_1>
深知好顏色、ト又ト 莫作委泥沙、ト、ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト	<18:6a_3>
齒落、ト 未是無心人、ト又ト? 舌存、トト恥作窮途哭	<19:20b_1>
恐是潘安縣、ト又ト 堪留衛玠車、ト 深知好顏	<18:6a_2>
豈知異物、ト又ト同精氣、ト <small>ト</small> ト 雖未成龍、ト	<17:26b_3>
曷 <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト酒、ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト尙堪驅使在、ト、ト、ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト 未須ト	<18:6b_4-7a_1>
廻鞭却走、ト見天子、トトト 朝飲漢水、ト暮靈州 自矜	<17:31a_2>
始知神龍 <small>ト</small> 別有、ト種、トトト 不比俗馬、ト空多肉 洛陽大	<17:31b_3>
龍媒昔是渥洼種、トト 汗血今稱獻於此 苑中駉牝	<17:25a_6>
周南留 <small>ト</small> 滯古所惜、トト 南極老人、ト應壽昌 美人 <small>ト</small>	<19:19b_2>
黎元愁痛、ト會蘇息、トト 夷狄跋扈、ト徒遶巡 授鉞、ト	<19:21b_2>
士卒多騎内廐馬、トト 惆悵、ト恐是病乘黃 当时歷	<17:27b_2>
他日更僕、トト語不淺、トトト 明公、ト論兵、ト氣益振 傾壺	<19:22a_2>
尙飛戰鬪塵、トト 濟世、ト宜引英俊人、トトト 黎元愁痛、ト會蘇息、トト	<19:21b_1>
夙昔、ト聞、ト思、ト一見、トトト 牽來、ト、ト左右、ト神皆竦 雄	<17:28a_4>
永嘉去、トトト 紅顏白面、ト、ト花映肉、トトトト 軍符、ト侯印、ト取豈遲、ト	<19:21a_3>
須、トト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト料理白頭人、トトトトトト、トトトトト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト 江	<18:6b_4-7a_1>
紉之、ト乙ト欲動、トトトト 可轉欵側、トトト 此豈有意仍	<17:27a_2>
紅、トトトトト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト取風霜實、ト	<18:3a_2>
乙、ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト取風霜實、トトトト 青、トトトト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト看雨露、ト乙ト?	<18:3a_2>
ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト料理白頭人、トトトトトトトトトトト、トトトトト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト 江深竹靜	<18:6b_4-7a_1>
未須トトト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト料理白頭人、トトトトトトトトトトトトトトトト、トトトトト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト <small>ト</small> ト	<18:6b_4-7a_1>
網群馬、トト籍馬多、トトト 氣在驅除、トトトト 出金帛 劉侯、ト奉使、ト	<17:33a_4>
ト富乙貴於身、トトト 号令、ト明白、トトトトト 人安居 俸錢、ト時散士	<17:32b_5-33a_1>
明日蕭條盡醉醒、トトト 殘花爛熳開何益、トト 籬邊野	<18:1a_4>
良、ト驥老始成、トトトトト 此馬、ト數年、トトトトト 人更驚 豈有四蹄、ト疾於鳥	<17:29a_3>
向非戎事備征伐、トトトト 君肯辛苦越江湖、トト 江湖凡	<17:32b_3>
盈盈、ト当雪杏、トトトト 豔豔待春梅、トト 直苦風塵暗	<18:5b_2>
芙蓉旌旗、トトト 煙霧樂 影動倒景搖瀟湘 星	<19:18b_3>
隅目、ト青瑩、トト來鏡懸、トトト 肉駿、ト硯礪、トト連錢動 朝	<17:28b_2>
看花、ト乙隨節序、トトト 不敢強爲容、ト	<18:10a_1>
畫洗、トト、ト須騰涇渭深、トトト 夕趨、トト、ト可刷幽并夜 吾聞	<17:29a_2>
頭上銳耳、ト批秋竹、トトト 脚下高蹄、ト削寒玉 始知神	<17:31b_2>
纍纍、ト嶺阜、ト藏奔突、トトト 往往坡陀、ト縱超越 角壯、ト	<17:26a_3>
天寒遠放、トト鷹爲伴、トトト 日暮不收、トト鳥啄瘡 誰家	<17:27b_5>
色侵書帙晚、トトト 陰過酒罇涼、ト 雨洗、トトト 娟	<18:10b_5>
茅齋、ト定王城郭門、トトト 藥物、ト乙楚老漁商市 市北	<19:22b_3>
於身、ト色有用、トトト 与道、ト氣相和、ト 紅、トトトト?	<18:3a_1>
繁枝、ト容易紛紛落、トトト 嫩藥、ト商量細細開、ト	<18:8a_4>
旧物、ト乙公能取、トトト 天廐、ト乙眞龍、トトトト 此其亞 畫洗、トト、ト須騰涇渭	<17:29a_1>
忽驚屋裏琴書冷、トトト 復亂簷前、トト星宿稀、ト 却	<17:38b_2>

紅 <small>レ</small> ハ <small>レ</small> ハ <small>レ</small> コ? <small>*/斗</small> 々 <small>斗</small> ト <small>*/</small> 取風霜實{ <small>レ</small> }五? 青 <small>レ</small> ハ <small>レ</small> ハ <small>レ</small> コ? <small>*/斗</small> 々 <small>斗</small> ト <small>*/</small> 看	<18:3a_2>
雨洗 <small>ッ</small> ヒ娟娟淨{ <small>レ</small> }五 風吹 <small>ッ</small> ヒ細細香 <small>レ</small> 乙 但令無	<18:10b_6>
綠竹 <small>ヒ</small> 一 <small>レ</small> 半含籜{ <small>レ</small> }五 新梢 <small>ヒ</small> 一 <small>レ</small> 纔出墻 <small>乙</small> 色侵書	<18:10b_4>
今我不樂思岳陽 <small>ッ</small> 又 <small>ヒ</small> 身欲奮飛{ <small>ノ</small> }ヤ?病在床 美人 <small>レ</small> 娟娟隔秋 <small>ッ</small>	<19:18a_1>
聞道南行 <small>ッ</small> ツ市駿馬{ <small>シ</small> }ヒ 不限疋數 <small>ッ</small> ツ軍中須 襄陽	<17:32a_3>
自矜胡騶 <small>ハ</small> 奇絶代{ <small>シ</small> }ヤ 乘出 <small>ハ</small> ハ千人万人愛 一聞	<17:31a_3>
美人 <small>一</small> 胡爲隔秋水 <small>五</small> 焉得置之{ <small>シ</small> }ヤ 貢玉堂 <small>五</small>	<19:19b_3>
浩茫茫 <small>ッ</small> ヒ 三歎聚散 <small>五</small> 臨重陽{ <small>シ</small> }ハ 当杯對客 <small>ッ</small> ツ忍涕淚 <small>ッ</small> ヒ	<17:33b_4>
一聞說盡急難材{ <small>ッ</small> }ロ 轉益愁向鴛鴦輩 頭上銳耳	<17:31a_4-31b_1>
杜陵老翁 <small>レ</small> 秋繫船{ <small>ッ</small> }ロ? 扶病相識長沙驛 強梳白	<17:33b_2>
強梳白髮 <small>五</small> ?提胡盧{ <small>ッ</small> }ロ 手兼菊花路傍摘 九州兵革	<17:33b_3>
市北肩輿 <small>又</small> 每聯袂{ <small>ッ</small> }ロ 郭南 <small>ハ</small> ハ抱甕 <small>五</small> 亦隠几 無	<19:23a_1>
欽 <small>レ</small> 上書 <small>ッ</small> ツ見 <small>현</small> /*한글도*/大計{ <small>ッ</small> }古 劉毅 <small>ハ</small> 答詔 <small>ッ</small> ツ驚群臣 他	<19:22a_1>
使我 <small>又</small> 晝立 <small>ッ</small> ツ煩兒孫{ <small>ッ</small> }古 令我 <small>又</small> 夜 <small>五</small> 坐 <small>ッ</small> ツ費灯燭	<19:21a_2>
皮乾剝落雜泥滓{ <small>ッ</small> }古? 毛暗蕭條連雪霜 去歲奔	<17:27a_4>
無數將軍 <small>又</small> 西第成{ <small>ッ</small> }ホ 早作丞相 <small>ッ</small> ツ東山起 鳥雀	<19:23a_2>
授鉞{ <small>ッ</small> }ホ 築壇 <small>乙</small> 聞意旨 <small>ッ</small> ヒ 頽網ト?	<19:21b_3>
老蓋千年意 <small>ッ</small> ツ 爲覓霜根數寸栽{ <small>ッ</small> }又 <small>ヒ</small>	<18:22a_4>
致君堯舜 <small>乙</small> 付公等{ <small>ッ</small> }又 <small>ヒ</small> ? 早據要路 <small>ッ</small> ツ思捐軀 <small>ッ</small>	<19:23b_3>
滄江白髮愁看汝{ <small>ッ</small> }又 <small>ヒ</small> 來歲如今 <small>ハ</small> ハ歸未歸 <small>阿</small>	<17:38b_4>
念茲空長大枝葉{ <small>ッ</small> }又 <small>ヒ</small> ? 結根 <small>ハ</small> ハ失所 <small>古</small> 纏風霜	<18:1b_2>
今我不樂思岳陽{ <small>ッ</small> }又 <small>ヒ</small> 身欲奮飛 <small>ノ</small> ヤ?病在床	<19:18a_1>
江湖後搖落 <small>ッ</small> ヒ <small>ヒ</small> 亦恐歲蹉跎{ <small>ッ</small> }又 <small>ハ</small>	<18:10a_8-10b_1>
直苦風塵暗{ <small>ッ</small> }ヒ 誰憂客鬢催 <small>五</small>	<18:5b_3>
襄陽幕府 <small>レ</small> 天下異{ <small>ッ</small> }ヒ 主將 <small>レ</small> 儉省 <small>ッ</small> ツ憂艱虞 祗	<17:32a_4>
細看六印{ <small>ッ</small> }ヒ 帶官字 <small>ッ</small> ヒ 衆道三軍 <small>レ</small> 遺	<17:27a_3>
東望少城 <small>ッ</small> ヒ花滿煙{ <small>ッ</small> }ヒ 百花高樓 <small>ヒ</small> 一 <small>レ</small> 更可憐 <small>乙</small> 誰	<18:7a_5>
此時 <small>亦</small> ハ對雪遙相憶{ <small>ッ</small> }ヒ 送客逢春 <small>ハ</small> ハ可自由 <small>阿</small> 幸不	<18:4b_1>
朝來 <small>亦</small> ハ少試華軒下{ <small>ッ</small> }ヒ 未覺千金 <small>レ</small> 滿高伽 赤汗 <small>レ</small>	<17:28b_3>
百草 <small>レ</small> 競春華{ <small>ッ</small> }ヒ 麗春 <small>レ</small> ハ最勝 <small>乙</small> 少須好顏	<18:2a_5>
安 <small>○</small> /*교정早호*/壯兒 <small>刀</small> 不敢騎{ <small>ッ</small> }ヒ 走過掣電 <small>乙</small> 傾城知 青糸 <small>又</small>	<17:30b_2>
憶子初尉永嘉去{ <small>ッ</small> }ヒ? 紅顏白面 <small>ハ</small> ハ花映肉 <small>レ</small> 尾	<19:21a_3>
東閣官梅動詩興{ <small>ッ</small> }ヒ 還如何遜 <small>レ</small> 在揚州 <small>乙</small> 此時	<18:4a_3>
逸群絶足 <small>レ</small> 信殊傑{ <small>ッ</small> }ヒ 倜儻權奇 <small>乙</small> 難具論 纍纍嶺	<17:26a_2>
深栽小齋後{ <small>ッ</small> }ヒ 庶使幽人 <small>五</small> 占 晚墮蘭麝中	<18:2a_2>
驢驕一骨 <small>レ</small> 獨當御{ <small>ッ</small> }ヒ 春秋二時 <small>亦</small> ハ歸至尊 至尊	<17:25b_4>
虞羅自各虛施巧{ <small>ッ</small> }ヒ 春鷹 <small>乙</small> 又同歸 <small>ッ</small> ハ必見猜	<17:12a_4-12b_1>
正翮搏風超紫塞{ <small>ッ</small> }ヒ 玄冬 <small>ハ</small> ハ幾夜 <small>ハ</small> ハ宿陽台	<17:12a_3>
似聞昨者赤松子{ <small>ッ</small> }ヒ 恐是漢代韓張良 <small>乙</small> 昔隨劉	<19:19a_2>
授鉞 <small>ッ</small> ホ 築壇 <small>乙</small> 聞意旨{ <small>ッ</small> }ヒ 頽網ト?漏網 <small>乙</small> 期弥綸 郭	<19:21b_3>
道州手札 <small>レ</small> 適復至{ <small>ッ</small> }ヒ 紙長 <small>ッ</small> ツ要自三過讀 盈把	<19:20b_2>
細看六印 <small>ッ</small> ヒ帶官字{ <small>ッ</small> }ヒ 衆道三軍 <small>レ</small> 遺路傍 皮乾剝	<17:27a_3>
可憐處處 <small>ハ</small> 巢居室{ <small>ッ</small> }ヒ 何異飄飄託此身 <small>古</small> 暫語船	<17:16b_2>
丁香体柔弱{ <small>ッ</small> }ヒ 亂 <small>五</small> 結 <small>五</small> 枝猶墊 細葉帶浮毛	<18:1b_5>
体弱{ <small>ッ</small> }ヒ 春苗早 <small>五</small> 叢長 <small>ッ</small> ヒ夜露多	<18:10a_6>
桃花一簇開無主{ <small>ッ</small> }ヒ 可愛深紅 <small>五</small> 愛淺紅 <small>乙</small> 黃四	<18:7b_3>
卿家旧物 <small>乙</small> 公能取{ <small>ッ</small> }ヒ 天廡 <small>一</small> 眞龍 <small>レ</small> 五此其亞	<17:29a_1>
撥棄潭州百斛酒{ <small>ッ</small> }ヒ 蕪沒瀟岸千株菊 使我 <small>又</small> 晝	<19:20b_4-21a_1>
雲飛玉立 <small>ッ</small> ツ盡清秋{ <small>ッ</small> }ヒ 不惜奇毛 <small>ッ</small> ツ恣遠遊 <small>乙</small> 在	<17:11b_1>
美人 <small>レ</small> 娟娟隔秋{ <small>ッ</small> }ヒ水 濯足洞庭 <small>五</small> 望八荒 鴻飛	<19:18a_2>

〃	湖南爲客動經春{〃}ヒ 燕子嘶泥兩度新乙 旧入故	<17:16a_6>
〃	久客ア多枉友朋書{〃}ヒ 素書一月凡一束 虚名但	<19:20a_1>
〃	東郊瘦馬、使我傷{〃}ヒ 骨骼、硯兀ッヲ如堵墻 絆	<17:26b_5-27a_1>
〃	東望少城{〃}ヒ 花滿煙ッヒ 百花高樓ヒ1	<18:7a_5>
〃	少須好顔色{〃}ヒ? 多漫枝條剩ア 紛紛桃李	<18:2b_1>
〃	五色、散作雲滿身{〃}ヒ 万里亦、方看汗流血 長今	<17:30a_5-30b_1>
〃	泉出巨魚長比人{〃}ヒ 丹砂又作尾ヒ?黃金鱗 豈	<17:26b_2>
〃	聖朝ア尙飛戰鬪塵{〃}ヒ 濟世%宜引英俊人、ヒハ	<19:21b_1>
〃	雨洗ッヒ媚娟淨、五 風吹{〃}ヒ細細香乙 但令無剪伐ッハ	<18:10b_6>
〃	以妓又報主寸心赤{〃}ヒ 氣却西戎ヒ?廻北狄 羅網	<17:33a_3>
〃	暫時花戴雪{〃}ヒ 幾處、葉沈波ヒ 体弱ッ	<18:10a_5>
〃	雨洗{〃}ヒ媚娟淨、五 風吹ッヒ細細	<18:10b_6>
〃	忽驚屋裏琴書冷、五 復亂簷前{〃}ヒ星宿稀乙 却繞井欄ッヲ添	<17:38b_2>
〃	附書与裴ヒ因示蘇{〃}ヒ 此生ハ已愧須人扶 致君堯	<19:23b_2>
〃	絆之ヒ乙欲動、ハ可轉欵側{〃}ヒ 此豈有意仍騰驥可 細看六	<17:27a_2>
〃	齒落、男未是無心人、又ヒ? 舌存{〃}ヒ恥作窮途哭 道州手札、適	<19:20b_1>
〃	羅網群馬ッヲ籍馬多{〃}ヒ 氣在驅除、乙ヒ、出金帛	<17:33a_4>
〃	鄧公矣馬癖乙人共知{〃}ヒ 初得花驄ッヒ大宛種 夙昔	<17:28a_3>
〃	功成惠養ッヲ隨所致{〃}ヒ 飄飄遠自流沙至 雄姿1未	<17:30a_2>
〃	晚墮蘭麝中{〃}ヒ 休懷粉身念%	<18:2a_3>
〃	体弱ッヒ春苗早ヒ 叢長{〃}ヒ夜露多乙 江湖後搖落ッヒ	<18:10a_6>
〃	此馬、臨陣ッヲ久無敵{〃}ヒ 与人乙又一心ッヲ成大功	<17:30a_1>
〃	玉京群帝集北斗{〃}ヒ 或騎麒麟%翳鳳凰 芙蓉旌	<19:18b_2>
〃	龍媒真種1在帝都{〃}ヒ 子孫、未落西南隅 向非戎	<17:32b_2>
〃	華軒、藹藹他年到{〃}ヒ 緜竹、亭亭出縣高乙 江上	<18:11a_3>
〃	在野、只教心力破{〃}ヒ 干人、何事乙網羅求ヒ	<17:11b_2>
〃	梅蘂臘前破{〃}ヒ 梅花年後多乙 絶知春意早	<18:4b_5-5a_1>
〃	巫山秋夜、螢火飛{〃}ヒ 簫疎、巧入坐人衣乙 忽	<17:38b_1>
〃	稠花ト亂蘂裹江浜{〃}ヒ 行步乙欵危ヒ1實怕春ヒ	<18:6b_3>
〃	江上舍前ヒ1無此物{〃}ヒ 幸分蒼翠ッヲ拂波濤ッハ	<18:11a_4>
〃	楚草經寒碧{〃}ヒ 庭春入眼濃乙 旧低%/斗	<18:9b_2>
〃	天寒遠放{〃}ヒ 鴈爲伴、五 日暮不收ッヒ	<17:27b_5>
〃	食之豪健、西域無{〃}ヒ 每歲攻駒、冠邊鄙 王有虎	<17:25b_2>
〃	赤汗、微生白雪毛{〃}ヒ 銀鞍、却覆香羅帕 卿家	<17:28b_4>
〃	鳳臆龍髻乙?未易識ヒ 側身注目{〃}ヒ長風生	<17:31b_5-32a_1>
〃	虚名但蒙寒暄問{〃}ヒ 泛愛ハ不救溝壑辱 齒落、	<19:20a_2>
〃	王有虎臣、司苑門{〃}ヒ 入門天廐、皆雲屯 驢驪	<17:25b_3>
〃	角壯、翻同麋鹿遊{〃}ヒ 浮深ッヲ簸蕩鼉鼉窟 泉出	<17:26b_1>
〃	近聞下詔ッヲ喧都邑{〃}ヒ 肯使麒麟乙又地上行	<17:29b_2>
〃	草堂壻西、無樹林{〃}ヒ 非子ア誰復見幽心ヒ 飽聞	<18:22b_2>
〃	劉侯、奉使ア光推擇{〃}ヒ 滔滔才%略1滄溟窄 杜陵	<17:33a_5-33b_1>
〃	寒遠放ッヒ鴈爲伴、五 日暮不收{〃}ヒ烏啄瘡 誰家、且養古願	<17:27b_5>
〃	、南隣愛酒伴ッヲ 經句ヲ衆出飲{〃}ヒ獨空牀乙 稠花ト亂蘂裹江	<18:6b_2>
〃	江邊一樹垂垂發{〃}ヒ 朝夕、催人自白頭乙	<18:4b_3>
〃	九州兵革、浩茫茫{〃}ヒ 三歎聚散ヒ臨重陽ヒハ 当	<17:33b_4>
〃	梁公1富乙貴於身跡{〃}ヒ 号令、明白、乙ヒ、人安	<17:32b_5-33a_1>
〃	黃四娘家、花滿蹊{〃}ヒ 千朵万朵壓枝低乙 留連戲	<18:7b_4>
〃	當時歷塊、誤一蹶{〃}ヒ 委棄乙非汝、能周防 見人	<17:27b_3>
〃	腕促蹄高ッヲ如踏鐵{〃}ヒ 交河、幾蹴曾冰裂% 五	<17:30a_4>
〃	苑中駉牝三千匹 豊草青青{〃}ヒ寒不死 食之豪健、西域無	<17:25b_1>

〃	雄姿逸態、何嵒峯{〃}ヒ 顧影驕嘶、〃自矜寵 隅目	<17:28a_5-28b_1>
〃	幸不折來傷歲{〃}ヒ暮 若爲看去亂鄉愁、江邊	<18:4b_2>
〃	当杯對客、〃忍涕淚{〃}ヒ 不覺老夫、神內傷%ヒ	<17:33b_5-34a_1>
〃	江湖凡馬、多顛顛{〃}ヒ 衣冠、往往乘蹇驢 梁公	<17:32b_4>
〃	公、馬癖、人共知、〃 初得花驄{〃}ヒ 大宛種 夙昔佗聞、思一見	<17:28a_3>
〃	不露文章、〃世已驚{〃}ヒ 未辭剪伐、誰能送 苦心	<18:13a_3>
〃	吾聞良、驥老始成{〃}ヒ 此馬、數年、人更驚	<17:29a_3>
〃	江湖後搖落{〃}ヒ 亦恐歲蹉跎、	<18:10a_8-10b_1>
〃	傾壺簫管、動白髮{〃}ヒ 儗劍、霜雪、吹青春	<19:22b_1>
〃	是愛花、〃即欲死、只恐花盡老{〃} 相催、繁枝、容易紛紛落	<18:8a_3>
〃	三年大、与致溪邊、十畝陰{〃}	<18:22b_5>
〃	步履宜輕過 開筵得屢供{〃} 看花、隨節序、不敢強	<18:9b_4>
〃	但令無翦伐{〃} 會見拂雲長	<18:11a_1>
〃	無此物、〃 幸分蒼翠、〃拂波濤{〃}	<18:11a_4>
〃	公等、〃 早據要路、〃思捐軀{〃}	<19:23b_3>
〃	去歲奔波逐余寇{〃} 驩駟、不慣、〃不得	<17:27a_5-27b_1>
〃	傾壺簫管、動白髮{〃} 儗劍{〃} 霜雪、吹青春 宴筵、曾	<19:22b_1>
〃	羅自各虛施巧、〃 春鴈、又同歸{〃} 必見猜、万里、寒空、祇一	<17:12a_4-12b_1>
〃	欲存老蓋千年意{〃} 爲覓霜根數寸栽、	<18:22a_4>
〃	旧入故園{〃} 嘗識主、如社日、遠看	<17:16b_1>
〃	不是愛花{〃} 即欲死、只恐花盡老、	<18:8a_3>
〃	黑鷹、不省人間有、〃 度海{〃} 疑從北極來、正翻搏風超	<17:12a_2>
〃	奔波逐余寇、〃 驩駟、不慣{〃} 不得將 士卒多騎內廐馬、	<17:27a_5-27b_1>
〃	当杯對客{〃} 忍涕淚、〃 不覺老夫、神	<17:33b_5-34a_1>
〃	一名胡驕、〃 前年、避胡過金牛{〃} 廻鞭却走、〃見天子、	<17:31a_1>
〃	暫語船楫、〃 還起去{〃} 穿花落水、益霑巾、	<17:16b_3>
〃	聞道南行{〃} 市駿馬、〃 不限疋數、	<17:32a_3>
〃	腕促蹄高{〃} 如踏鐵、〃 交河、幾蹴	<17:30a_4>
〃	黃師塔前江水東、〃 春光、懶困{〃} 倚微風、桃花一簇開無主	<18:7b_2>
〃	晝立、〃 煩兒孫、〃 令我、又夜、坐{〃} 費灯燭 憶子初尉永嘉去、	<19:21a_2>
〃	郭欽、上書{〃} 見、*한글도*/大計、	<19:22a_1>
〃	星宮之君、〃 醉瓊漿、〃 羽人稀少{〃} 不在傍 佗聞昨者赤松子、	<19:18b_4-19a_1>
〃	陽幕府、天下異、〃 主將、儉省{〃} 憂艱虞 祇收壯健勝鐵甲、	<17:32a_4>
〃	劉毅、答詔{〃} 驚群臣 他日更僕、〃 語不	<19:22a_1>
〃	近聞下詔{〃} 喧都邑、〃 肯使麒麟、	<17:29b_2>
〃	陣、〃 久無敵、〃 与人、又一心{〃} 成大功 功成惠養、〃 隨所	<17:30a_1>
〃	角壯、翻同麋鹿遊、〃 浮深{〃} 簸蕩龜窟 泉出巨魚長比	<17:26b_1>
〃	此馬、臨陣{〃} 久無敵、〃 与人、又一心	<17:30a_1>
〃	上舍前、〃 無此物、〃 幸分蒼翠{〃} 拂波濤、	<18:11a_4>
〃	無數將軍、西第成、〃 早作丞相{〃} 東山起 鳥雀、〃 肥秋粟菽	<19:23a_2>
〃	廻鞭却走{〃} 見天子、〃 朝飲漢水、	<17:31a_2>
〃	道州手札、適复至、〃 紙長{〃} 要自三過讀 盈把、〃 那須滄	<19:20b_2>
〃	江上被花惱不徹{〃} 無處告訴、只顛狂、走覓	<18:6a_5-6b_1>
〃	青糸、絡頭{〃} 爲君老、〃 何由、却出橫門	<17:30b_3>
〃	羅網群馬{〃} 籍馬多、〃 氣在驅除、	<17:33a_4>
〃	走覓、〃 南隣愛酒伴{〃} 經旬、出飲、〃 獨空牀	<18:6b_2>
〃	他日更僕{〃} 語不淺、〃 明公、論兵、	<19:22a_2>
〃	飛玉立、〃 盡清秋、〃 不惜奇毛{〃} 恣遠遊、在野、只教心	<17:11b_1>
〃	功成惠養{〃} 隨所致、〃 飄飄遠自流沙	<17:30a_2>
〃	却繞井欄{〃} 添箇、〃 偶經花葉、	<17:38b_3>

%	玉京群帝集北斗ッヒ 或騎麒麟{%)翳鳳凰 芙蓉旌旗、五煙霧樂	<19:18b_2>
%	つ忍涕淚ッヒ 不覺老夫矣神内傷{%)ヒハ	<17:33b_5-34a_1>
%	君不見{%)ヲ 左輔白沙又如白水、繚以	<17:25a_4>

資料2 東京大学文学部言語学研究室所蔵本 口訣 KWIC索引

ヒ	強ッ也シ神乙迷ッヒ{ヒ}復乎勿乙皂鵬前フ? 俊材早在	<17:9a_3>
ヒ	願分竹實及螻蟻、{ヒ} 盡使鴟梟相怒號阿	<17:3a_4>
ヒ	強ッ也シ神乙迷ッヒ{ヒ}ヒ復乎勿乙皂鵬前フ? 俊材早	<17:9a_3>
ハ	今秋天地在印大{ハ} 吾亦離殊方	<17:17a_4>
ハ	天用、莫如龍今ハ{ハ} 有時繫扶桑 頓轡海徒涌 神	<17:24a_5>
ハ	地用莫如馬今ハ{ハ} 無良復誰記 此日千里鳴 追	<17:24b_4>
ハ	天用、莫如龍今ハ{ハ}ハ 有時繫扶桑 頓轡海徒涌	<17:24a_5>
ハ	地用莫如馬今ハ{ハ}ハ 無良復誰記 此日千里鳴	<17:24b_4>
大	今秋天地在印{大}ハ 吾亦離殊方	<17:17a_4>
刀	性命苟不存 英雄{刀}徒自強 吞聲勿復道 眞宰意茫	<17:24b_2>
今	天用、莫如龍{今}ハ{ハ} 有時繫扶桑 頓轡海徒	<17:24a_5>
今	地用莫如馬{今}ハ{ハ} 無良復誰記 此日千里	<17:24b_4>
今	在野只教心力破 干人、何事今乙網羅求 一生自獵知無敵 百	<17:11b_2>
乙	強ッ也シ神{乙}迷ッヒヒ復乎勿乙皂鵬前フ?	<17:9a_3>
乙	在野只教心力破 干人、何事今{乙}網羅求 一生自獵知無敵 百	<17:11b_2>
乙	強ッ也シ神乙迷ッヒヒ復乎勿{乙}皂鵬前フ? 俊材早在蒼鷹上	<17:9a_3>
ハ	天用、莫如龍今ハ{ハ}ハ 有時繫扶桑 頓轡海徒涌	<17:24a_5>
ハ	地用莫如馬今ハ{ハ}ハ 無良復誰記 此日千里鳴	<17:24b_4>
勿	強ッ也シ神乙迷ッヒヒ復乎{勿}乙皂鵬前フ? 俊材早在蒼鷹上	<17:9a_3>
シ	強ッ也{シ}神乙迷ッヒヒ復乎勿乙皂鵬前	<17:9a_3>
阿	憐處處巢居室、何異飄飄託此身{阿} 暫語船檣還起去 穿花落水益	<17:16b_2>
阿	有四蹄疾於鳥五 不與八駿俱先鳴{阿} 時俗造次那得致 雲霧晦冥方	<17:29a_4>
阿	竹實及螻蟻、ヒ 盡使鴟梟相怒號{阿}	<17:3a_4>
フ	也シ神乙迷ッヒヒ復乎勿乙皂鵬前{フ}? 俊材早在蒼鷹上 風濤颯颯	<17:9a_3>
也	強ッ{也}シ神乙迷ッヒヒ復乎勿乙皂鵬	<17:9a_3>
五	豈有四蹄疾於鳥{五} 不與八駿俱先鳴阿 時俗造次	<17:29a_4>
、	可憐處處巢居室{、} 何異飄飄託此身阿 暫語船檣	<17:16b_2>
、	在野只教心力破 干人、何事今乙網羅求 一生自獵知	<17:11b_2>
、	天用{、}莫如龍今ハ{ハ}ハ 有時繫扶桑	<17:24a_5>
、	豈知異物同精氣 雖未成龍{、}亦有神	<17:26b_3>
、	願分竹實及螻蟻{、}ヒ 盡使鴟梟相怒號阿	<17:3a_4>
印	今秋天地在{印}大ハ 吾亦離殊方	<17:17a_4>
手	強ッ也シ神乙迷ッヒヒ復{手}勿乙皂鵬前フ? 俊材早在蒼鷹	<17:9a_3>
ッ	強ッ也シ神乙迷ッヒヒ復{ッ}勿乙皂鵬前フ? 俊材	<17:9a_3>
ッ	強{ッ}也シ神乙迷ッヒヒ復乎勿乙皂	<17:9a_3>
ナ	故畦遺穗已蕩盡{ナ}/*한글도*/ 天寒歲暮波濤中	<17:19a_2>